インドネシア語の「di-動詞」構文と日本語の「（ら）れる」との対照研究

デディ，ステディ

要旨

本稿はインドネシア語の「di-動詞」構文と日本語の「（ら）れる」を対照し、対応する部分と対応していない部分について考察したものである。現在一般的に「di-動詞」構文は受身を表す構文と考えられており、日本語の受身「（ら）れる」と対応すると考えられることが多い。しかし、本稿ではインドネシア人学習者の日本語使用上、「（ら）れる」の多用による誤用が見られることから、「di-動詞」構文＝受身という考え方そのものに問題があるのではないかと考える。そして、「di-動詞」構文について様々な角度から考察した結果、「受身」は「di-動詞」構文の意味・機能の一部であり、日常的な言語使用から見れば、「di-動詞」構文は「ある既知の話題(名詞句)に関して、動作主ではなく、被動作主及び動作自体を焦点化する表現法」であることが明らかになった。これらのことから、インドネシア人学習者には、「di-動詞」構文＝「（ら）れる」ではないということを理解する必要があると結論付けた。

〔キーワード〕「di-動詞」、「meng-動詞」、「られる」、受動文、能動文

1. はじめに

1.1 研究の動機

インドネシア人日本語学習者の日本語作文には、受身文の多用及び誤用がよく見られる。誤用の原因として、「『di-構文』[1]を機械的に日本語の受身「（ら）れる」に置き換えること」（田中 1991）など、直訳による過剰使用の傾向が高いということが指摘されている。インドネシア語の「di-動詞」構文は日常的に頻繁に使われており、確かにその中の一部の機能は、欧米・西洋言語学では passive（受身）と呼ばれるような形式・機能と類似している。しかし、「di-動詞」構文には受身以外の機能もあり、使用頻度も日本語の受身文「（ら）れる」よりも圧倒的に多いため[2]、それらを全て機械的に置き換えられるとは言い切れない。

インドネシア語の「di-動詞」構文の使用頻度が高いと言われているのは、例えば、以下のようにいわゆる受身の用法以外にも、丁寧さ、指令法（jussive）、尊敬の気持ちなどを表すこともできるからである。

(1) Bapak *ditunggu* oleh　pak dekan.
先生　di-待つ　によって　学部長　（直訳：先生は学部長に待たれているよ）
学部長が先生を待っていますよ。

(2) Tolong *dikirim* segera!
お願い　di-送る　早めに　（直訳：早めに送られてください）

（その手紙を）早めに出してください。

(3) Silahkan *diminum*!
どうぞ　di-飲む　（直訳：どうぞ、飲まれてください。）
どうぞ召し上がってください。

(4) Ikan ini dapat *dimakan*.
魚　この　できる　di-食べる　（直訳：この魚は食べられることができる）
この魚は食べられる。

インドネシア人にとって、例(1)は丁寧さを、例(2)は指令法（jussive）を、例(3)は尊敬の気持ちを表すために、「di-動詞」構文で表現するのが普通である。この「di-」は受動態の形態素であり、能動態である接頭辞「meng-」に対応すると言われている。もし、上の例を能動態である「meng-動詞」[3]構文で表現すれば、後に見るように直接的な命令や習慣的にあまりよくないというニュアンスが感じられる。また、例文(4)は可能表現を表すものであるが、もう一つの能動態である「meng-動詞」構文で表現すれば非文となる。

以上のように、実際の言語運用では、「di-動詞」がより広い範囲で用いられることからも、「di-動詞」構文が受身以外の意味・機能も果たしているのではないかと考えられる。つまり、「di-動詞」構文を受身のみと見なすのは問題がある。

このような「di-動詞」構文の影響によるものか、インドネシア人学習者の日本語作文には、「られる」の使用が比較的多く見られ、学習者による日本語の「られる」の誤用をもたらす根本的な原因となっていると考えられる。そこで、本研究では、インドネシア語の「di-動詞」構文と日本語の「られる」とを比較し、学習者の視点から検証して、それぞれの類似点及び相違点を明らかにしたい。

1.2 研究の目的・方法

本研究では、「di-動詞」構文の意味・機能を分析・記述し、それを日本語の「られる」と比較し、それぞれの類似点・相違点を明らかにすることを目的とする。

まず、インドネシア語の「di-動詞」構文はどのような意味・機能を果たしているか、情報構造、談話ープラグマティック・レベル、文レベル、句レベルにおける使用での意味・機能の観点から分析し記述する。本研究では、受身は「di 動詞」の用法の１つと捉え、受身以外の用法、すなわち受身として捉えることのできない用法の細部を考察し、「di-動詞」構文の本質的な性質を明らかにする。その結果を日本語の「（ら）れる」と対照し、どの部分が同じであるか、どの部分が異なるかを明らかにする。次に、対照した結果に基づき、インドネシア人日本語学習者が「られる」を学習する際、困難と予測される構文・構造を用いて、実際にエラーを起こすかどうかについて、学習者を用いた調査を行う。最後に、分析の結果に基づき、インドネシア人日本語学習者が日本語の「（ら）れる」を習得する際に、重要と考えられる点について述べる。

2. 「di–動詞」と「（ら）れる」の対照

従来、「di-動詞」構文は受身と呼ばれているが、日常的な言語使用では、特に談話の機能から見れば、受身以外の機能もあると考えられ、以下で見ていく。

2.1「di–動詞」の意味・機能

インドネシア語の文法では、接辞、すなわち、接頭辞、接中辞、接尾辞、共接辞という形態素がある。接頭辞の代表的なものは、接頭辞「meng-」と「di-」である。これを動詞の基本形の前につけることによって、「meng-動詞」と「di-動詞」ができる。規範文法ではヴォイスとしての「meng-」は能動態（active-voice）のマークであり、他動詞や自動詞に付けるが、「di-」は受動態（passive- voice）のマークであり、他動詞にしか付けないとなっている。例えば、pukul という動詞の基本形は、接頭辞 meng-を付けると memukul（殴る=能動態）となり、接頭辞 di-を付けると dipukul（殴られる=受動態）となる。また、「di-動詞」は「meng-他動詞」に対立し、その動詞の他動性を検証するための典型的な方法である（Alieva et al. 1991：156）。例えば、mempelajari と belajar という動詞は両方とも日本語の「学ぶ（習う・勉強する）」に対応するが、他動性の違いについては「di-」を用いて次のようにテストができる。

(5) a. Ali sedang *mempelajari* tarian itu.
アリ　継続　meng-学ぶ　踊り　その
アリはその踊りを学んでいる。
b. Ali sedang *belajar* tarian itu.
アリ　継続　ber-学ぶ　踊り　その
アリはその踊りを学んでいる。

(6) a. Tarian itu sedang *dipelajari* (oleh)　Ali.
踊り　その　継続　di-学ぶ　(によって)　アリ（直訳:その踊りはアリによって学ばれている）
その踊りをアリが学んでいる。
b. *Tarian itu sedang *dibelajar* (oleh)　Ali.
踊り　その　継続　di-学ぶ　(によって)　アリ

以上の例から、「meng-動詞」の mempelajari（5a）は「di-動詞」の dipelajari(6a)に変形できるが、「ber-動詞」の belajar（5b）は「di-動詞」（6b）に変えることができないため、「meng-動詞」の mempelajari の方が belajar よりも他動性が高いということになる。

本稿では、「meng-動詞」構文と「di-動詞」構文の異なるレベルの比較を通じて「di-動詞」構文の性質を見ていく。

2.1.1 情報構造：「meng-動詞」は新情報、「di-動詞」は旧情報

インドネシア語の文は SVO タイプの言語であると言われている。しかし、言語使用での特徴の１つは、main thought comes first, adjunct follows という大原則がある。つまり、話者の最も言いたいことが opening words として文頭にくる（田中　1991:110）。しかし、談話のレベルでは主に「meng-動詞」構文で始まる。その話の続きとしては「di-動詞」構文が用いられるが、談話の始めには来ない。つまり、「meng-動詞」構文で表す被動作主句は新情報であるの

に対し、「di-動詞」構文で表す被動作主句は旧情報であると言える。

(7) Ali *membeli* buku. **Buku itu** *diberikan* pada adiknya Nani, kemudian *dibacanya* setiap hari.
アリ meng-買う 本 本 その di-あげる-kan に 彼の妹 ナニ そして di-読む-nya 毎日
（直訳：アリが本を買った。その本は妹のナニにあげられて、そして、毎日、彼女に読まれた。）
→アリが本を買って、妹のナニにあげた。ナニが毎日にそれを読んでいる。

(8) Dani *masuk* ke ruang depan. Lalu *diambilnya* koran dari atas meja, kemudian *dibacanya*
ダニ 入る へ 応接間 そして di-取る-nya 新聞 から 上 机 それから di-読む-nya
sambil duduk di sofa. Lalu *dikeluarkannya* sebungkus rokok dan korek api dari sakunya.
～ながら 座る に ソファ そして di-取り出す-nya 一箱 煙草 と マッチ から ポケット-nya
Kemudian *diambilnya* satu batang rokok dan *dinyalakannya*. *Dihisapnya* dalam-dalam *sambil*
それから di-取る-nya 一本 煙草 そして di-火をつける-nya di-吸う-nya 深く ～ながら
memejamkan mata, kemudian *dikepulkannya* asap rokok itu dari hidungnya. (Afandi, 2006:70)
meng-閉じる-kan 目 それから di-吐く-kannya 煙 煙草 その から 彼の鼻

（直訳：ダニが応接間に入った。そして、机の上にある新聞は彼に取られて、そしてソファに座りながら読まれた。それから、ポケットから煙草箱とマッチが出された。そして、一本の煙草が取られて、火をつけられた。目を閉じながら、深く吸われて、それから、その煙草の煙が彼の鼻から吐かれた。）

→ダニが応接間に入ってきて、机の上にある新聞を取って、ソファに座りながら読んでいる。彼はポケットから煙草箱とマッチを取り出し、煙草を一本取って、そして煙草に火をつけた。彼は目を閉じながら、煙草の煙を深く吸い込んで、さらに鼻の穴から吐き出した。

例(7)、(8)に見られるように、「meng-動詞」構文は談話の最初（話の始まり）に、「di-動詞」構文はその話の続きに出てくる。例(7)では、membeli（買った）という「meng-動詞」で表す情報は、「アリが本を買う」ということである。聞き手にとってはそれを聞くと、「本」という新情報（未知情報）が与えられたことを意味する。この本は次の文ではもう旧情報（既知情報）になっているため、「di-動詞」構文で表現するわけである。同様に、例(8)では、masuk という「meng-動詞」で表す新情報は、「ruang depan（応接間）」である。また、次の文では応接間の中にある物を話題にして「di-動詞」構文で表すのは、すでに旧情報になるからである。なぜなら、聞き手は「応接間」を聞くと、その場所に置いてある物とその場でやっていることは頭ではすでにわかっているからである。

また、Prentice（1987：934）は、「meng-動詞」は subject orientation（主語への方向付け）、「di-動詞」は object orientation（目的語への方向付け）のための表現であるとしている。インドネシア語の主語は必ず definite（特定）のものが必要であるため、object orientation はそのためである。例えば、英語の“*A dog* has bitten Ali's child”（ある犬がアリの子供を噛み付いた）の場合は、a dog（ある犬）は indefinite（不特定）なので、この a dog は主語になりにくい。そのため、より特定性の強い Anak Ali（アリの子供）を、“Anak Ali *digigit* anjing”（直訳：アリの子供が犬に噛まれる）のように主語にして、「di-動詞」構文で表すわけである。例(7)の最初の文も、「アリが本を買った」ということでは、主語である「アリ」が「本を買った」という動作を描写するだけである。どのような「本」かがはっきりしていなくても問題にならない。その目的語である「buku（本）」は indefinite（不特定）のため、「di-動詞」構文の主語にはなりにくい。そのため、buku の後に itu（その）という指示詞を付けることによって、特定されたものにな

って、例(7)の二つ目の文のように「di-動詞」構文の主語になることができる。つまり、前者の buku（本）は「不特定＝新情報」であるのに対し、後者の buku itu（その本）は「特定＝旧情報」であると言える。

2.1.2 談話―プラグマティック・レベル：「meng-動詞」は subject focus、「di-動詞」は action focus 又は object focus

上で述べたようにインドネシア語では、話者の最も言いたいことは、動作主（agent/subject）か被動作主（patient/ object）、あるいは動作自体(action)が文頭に置かれる。これを focus（焦点）と呼ぶ。つまりインドネシア語では、subject focus(動作主の焦点化)、object focus（被動作主の焦点化)、action focus(動作の焦点化）という 3 つの捉え方が考えられる。動作主に焦点が置かれる場合（subject focus）は「meng-動詞」構文を使うのに対し、被動作主や動作自体に焦点が置かれる場合（action focus 又は pbject focus）は「di-動詞」構文を使うことになる。

(9) a. **Ali** *membaca* buku di ruang depan. (subject/agent focus)
アリ meng-読む 本 で 応接間
アリが応接間で本を<u>読んだ</u>。
b. **Buku itu** *dibaca* (oleh) Ali di ruang depan. (patient/object focus)
本 その di-読む (によって) アリ で 応接間
その本をアリが応接間で<u>読んだ</u>。
c. ***Dibaca(nya)*** buku itu di ruang depan. (action focus)
di-読む-nya 本 その で 応接間
その本を(彼が)<u>**読んだのは**</u>、応接間だ。

例(9a)では、応接間で本を読んだ動作主（subject）が「アリ」であることに焦点があり、「アリ」が文頭に置かれ、例(9b)では、応接間でアリが読んだ被動作主（object）が「本」であることに焦点があり、「本」が文頭に置かれ、例(9c)では応接間での本に対するアリの動作（action）が「読んだ」であることに焦点があり、「読んだ」が文頭に置かれる。つまり、インドネシア語では、話者の言いたいことは、focus（焦点）によって動作主（subject)・被動作主（object)・動作自体（action）を文頭に置くのがあり得る。

また、(9a)のような subject focus は、インドネシアの法律・憲法文章などで動作主の義務をはっきりさせるために、「meng-動詞」構文としてよく使われる。例えば、“Presiden *mengangkat* menteri kabinet”(大統領が内閣大臣を指名する）と“Menteri kabinet *diangkat* oleh presiden”（内閣大臣が大統領によって指名される）との違いは、前者の「meng-動詞」構文では、大統領が内閣大臣を指名するのは義務であるのに対し、後者の「di-動詞」構文では、大統領が内閣大臣を指名しなくてもよいという解釈が可能である。また、(9b)の action focus の場合は、上で挙げた例(8)のように動作主の動作を描写するために使われる。

なお、日常的な言語使用では、object focus の本来の機能から談話―プラグマティック・レベルでは jussive（指令法）と politeness（丁寧さ）という意味が派生すると考えられる。

a. 指令法（jussive）としての「di-動詞」構文

指令法（jussive）とは、「主として三人称（時には二人称）に対する指示・命令を表す法。命令法（imperative）が、基本的に二人称によって話し手の意志を直接的に実現するのに対して、指令法は間接的である」（『現代言語学辞典』p. 331）。つまり、話し手が、相手にしてもらいたいこと（命令・依頼）について、直接的に言わずに、まるで誰か別の人、つまり三人称に対して言うように、間接的に伝える命令・依頼である。

インドネシア語の「di-動詞」構文にはこのような意味（機能）を果たすものもあると考えられる。前節に挙げた例(2)と(3)もjussive（指令法）の例であると考えられる。

(10) Tolong (surat itu) *dikirim* segera! (=例(2))
お願い 手紙 その di-送る 早めに （直訳：早めに(その手紙が)送られてください）
（その手紙を）早めに出してください。

(11) Silahkan (tehnya) *diminum!* (=例(3))
どうぞ そのお茶 di-飲む （直訳：どうぞ、そのお茶が(あなたによって)飲まれてください。）
どうぞ（お茶を）召し上がってください。

従来、このような例は命令の受身文[4]と言われているが、多くの言語では受動態を使って命令文を作ることが殆ど見られないため、このような「di-動詞」構文の使用はjussive（指令法）であると考えられる。

また、文の構造から見た場合、上の例を受身と見なせば、非文のはずである。なぜなら、次節（2.2）で見るように、受動文としての「di-動詞」構文のagent（動作主）は本来は第三人称名詞に限られるからである。上の例では、聞き手（二人称）「手紙を出してほしい・お茶を飲んでほしい」という話し手の意図・要求を間接的に伝えるために、「この手紙を出してきてくださるように」あるいは「このお茶を飲んでくださる人間がいればいいなあ」というようなニュアンスが含まれているため、「di-動詞」で表現するわけである。一方、聞き手の方にとっては、「頼まれたのは他人ではなく、自分だ」という意識は感じるが、このような言い方では、自分が命令されたというニュアンスが薄くなり、丁寧に感じる。もし、上の例を普段の命令形（ゼロ動詞）で表現すれば、以下のようになる。

(12) Tolong *kirim* surat itu segera! (=10)
お願い φ送る 手紙 その 早めに
その手紙を早めに出しなさい。

(13) Silahkan *minum* tehnya! (=11)
どうぞ φ飲む そのお茶
そのお茶を飲みなさい。

この例では、上司・親のような目上の人の立場から部下・子供に対する命令である。聞き手はどうしてもその命令に従うべきだというニュアンスが含まれる。以上をまとめると、「di-動詞」構文で表現する命令・依頼などを受身文とは言わずに、指令法（jussive）と言えよう。

次に、「di-動詞」構文は、相手に何かのアドバイスを言う時にも、sebaiknyaという助動詞の

後ろに置かれることによって、日本語の「～た方がいい」という示唆表現を表すことができる。この場合も同じように、「meng-動詞」構文は subject focus であるため、そのアドバイスは固いと感じられるが、「di-動詞」は object focus であるため、丁寧に感じられる。

(14) a. (Anda) **sebaiknya** *mengerjakan* tugas itu sekarang juga!（「meng-動詞」構文）
あなた ～たほうがいい meng-やる-kan 宿題 その 今 も
(あなたが)、今のうちに、宿題をやった方がいい。
b. Tugas itu **sebaiknya** *dikerjakan* sekarang juga!（「di-動詞」構文）
宿題 その ～たほうがいい di-やる-kan 今 も （直訳:その宿題が今やられた方がいい。）
今のうち、その宿題をやった方がいい。

例(14a)では、先生がいつも怠けている学生に、「あなたはいつも忘れるから、今忘れないうちにやれ！」というニュアンスが含まれるのに対し、例(14b)では、先生が真面目な学生に「後でもいいけど。今は暇だよね。宿題をやってみたら？」というニュアンスが含まれる。このように、「di-動詞」構文で表現する示唆表現も、そのアドバイスは直接に聞き手に言わずに、まるで第三者に言うようであるため、聞き手にしてみれば丁寧に感じる。

最後に、町の掲示板などで指示も「di-動詞」構文で表現するのが、一般的である。例えば、店の中で、ある品物に触らないようにするために、日本語では「触るな！」、英語では'Don't touch!'のような能動態で表現されるが、インドネシア語では'Jangan *disentuh*!'（触られるな！）と表現する。「meng-動詞」構文で表現すれば、'Jangan *menyentuh* benda ini!'（この品物を触るな！）となるが、特定の読み手がその文の主語になるため、「あなたがいつもこのものを触っているから、これからもう触るなよ」というような印象を与えてしまい、この店に誰も客が来なくなると考えられる。

b. politeness（丁寧さ）を表す「di-動詞」構文

次に、「di-動詞」構文で表現する文は丁寧な表現（politeness）というニュアンスがある。これは上の jussive に似ているが、jussive が命令・依頼を表す文であるのに対し、politeness は平叙文のことを指す。前節の例(1)を「meng-動詞」構文と比較しながら、もう一度見てみよう。

(15) a. Bapak *ditunggu* oleh pak dekan. (=1)
先生 di-待つ によって 学部長 （直訳:先生(=あなた)は学部長に待たれているよ）
学部長が先生を待っていますよ。
b. Pak dekan *menunggu* bapak.
学部長 meng-待つ 先生
学部長が先生を待っていますよ。

これらの例では、object focus(15a)か subject focus(15b)かを描写するだけであるが、聞き手にとっては異なるニュアンスが感じられる。例(15a)では、動作主である「学部長」が被動作主である「先生（二人称=あなた）」に何かの用事があって、「あなたが学部長の所に来るように」あるいは、「学部長があなたの力・手伝いを求めているから、行ってください」という解釈もできる。それに対して、例(15b)では、「学部長があなたを呼んでいるよ。何か悪いことでも

したのか？」あるいは、「あなたはどうして約束したのに、学部長の所に行ってないの？早く行ってください」という解釈もできる。つまり、聞き手にとって「meng-動詞」構文は批難の意味を生じるが、「di-動詞」構文にはそのようなものが感じられない。

(16) a. "Amir! Pak Ali *memanggil* kamu lho."
アミル　アリ先生　meng-呼ぶ　君　よ。
「アミル君、アリ先生がお前を呼んでいるよ」
b. "Amir! Kamu *dipanggil* pak Ali lho."
アミル　君　di-呼ぶ　アリ先生　よ
「アミル君、お前はアリ先生に呼ばれているよ」

テストの後、アミルは同級生に上のようなことを言われたとすると、(16a)では、「アリ先生がお前を呼んでいるよ。カニングでもしていたのか？」という批難の調子が感じられるのに対し、(16b)では「アリ先生がお前を呼んでいるよ。きっと、試験がよくできたからだね」ということが感じられる。同様に、

(17) A: Suratnya sudah *dibaca*?
手紙　もう　di-読む　(直訳:その手紙が読まれた？)
例の手紙を読んだ？
B: Sudah, bahkan sudah *dikirim* balasanya.
もう　むしろ　もう　di-送る　返事　その　(直訳:はい、もう返事も送られた)
はい、読みました。返事も出しました。
C: Sudah. Bahkan saya sudah *mengirim* balasanya.
もう　むしろ　私　もう　meng-送る　返事　その
はい、読みました。(私は)返事も出しましたよ。

例(17)A の dibaca（読まれる）と B の dikirim（送られる）は両方とも丁寧さが感じられる。しかし、C の場合は、「meng-動詞」構文である mengirim（送る）を使うと、主語である saya（私）が必要になっており、自分がやったということを強調すると感じるため、丁寧さが薄くなるというニュアンスも含まれる。

2.1.3 文レベル：他の様々な表現と共に使う「di-動詞」構文

ここでは、「di-動詞」は文レベルや句レベルでは、他の様々な表現と共に使えることを見ていく。まず、「di-動詞」構文は被動作主の焦点化（object focus）を伴って、文レベルでは、他の様々な表現と共に自由に使用できる。

a. 可能表現と共に使う「di-動詞」構文

述語動詞の前に dapat/bisa/mampu のような助動詞を置けば、可能表現となる。これらの助動詞は「meng-動詞」だけではなく、「di-動詞」の前にも使える。

(18) Bagi **Ali** **bisa** *memakan* ikan seperti ini.（meng-動詞）
には　アリ　できる　meng-食べる　魚　ような　この
アリにはこのような魚が食べられる。

(19) **Ikan** seperti ini **dapat** *dimakan*. (=4)（di-動詞）
魚　ような　この　できる　di-食べる　(直訳:このような魚が食べられることができる)
この魚が食べられる。

例(18)では、動作主である Ali に対する焦点化（focus）であり、例(19)では、被動作主である ikan に対する焦点化(focus)である。前者ではアリがその魚を食べることが可能であるが、アリ以外の者は不可能かもしれないということを表すのに対し、後者はその魚は人間なら誰でも食べ物とすることが可能であることを表す。

b. 許可・義務・禁止表現と共に使う「di-動詞」構文

述語動詞の前に、boleh、harus/mesti、jangan/tidak boleh のような助動詞を付けると、許可・義務・禁止を表す表現となる。これらの助動詞の後ろに来る動詞は、subject focus（主語の焦点化）か object focus（目的語の焦点化）かによって「meng-動詞」構文か「di-動詞」構文を使う。つまり、話者が一番言いたいことが主語（agent）の場合は「meng-動詞」構文を使うのに対し、話者が一番言いたいのが目的語（patient）の場合は「di-動詞」構文を使う。

(20) a. Orang Islam **boleh** *memakan* daging sapi. （「meng-動詞」＋許可表現）
人 イスラム ～てもいい meng-食べる 肉 牛
イスラム教徒は牛肉を食べてもいい。
b. Daging sapi **boleh** *dimakan* (oleh orang Islam). （「di-動詞」＋許可表現）
肉 牛 ～てもいい di-食べる によって 人 イスラム (直訳:牛肉はイスラム教徒に食べられてもいい)
牛肉は(イスラム教徒によって)食べられる。

(21) a. Orang Islam **harus** *mengerjakan* shalat setiap hari lima kali. （「meng-動詞」＋義務表現）
人 イスラム べき meng-やる 礼拝 毎 日 五 回
イスラム教徒は毎日五回礼拝をしなければならない。
b. Shalat **harus** *dikerjakan* (oleh orang Islam) setiap hari lima kali. （「di-動詞」＋義務表現）
礼拝 べき di-やる によって 人 イスラム 毎 日 五 回
(直訳:礼拝はイスラム教徒によって毎日五回やられなければならない。)
礼拝は(イスラム教徒が)毎日五回やるべきである。

(22) a. Orang Islam **jangan** *meminum* alkohol. （「meng-動詞」＋禁止表現）
人 イスラム ～ていけない meng-飲む アルコール
イスラム教徒はアルコールを飲んではいけない。
b. Alkohol **jangan (tidak boleh)** *diminum* (oleh orang Islam). （「di-動詞」＋禁止表現）
アルコール ～てはいけない di-飲む によって 人 イスラム
(直訳:アルコールはイスラム教徒によって飲まれてはいけない。)
アルコールは(イスラム教徒には)だめだ。

c. 難易表現と共に使う「di-動詞」構文

述語動詞の前に、mudah/gampang/susah/sulit を置くと、難易の表現となる。ただし、他動詞の前に来る場合は、その間に untuk（ために）という前置詞を置く必要があるが、「di-動詞」構文の前に来る場合は必要ない。これは日本語の「～やすい・～にくい」という意味に近い。

(23) a. Bagi Ali **mudah untuk** *menjawab* soal itu. （「meng-他動詞」＋難易表現）
にとって アリ 簡単 ために meng-答える 問題 その
アリにとってその問題を解くのは簡単だ。 (=アリにはその問題が解けやすい)
b. Soal itu **mudah** *dijawab*. (「di-動詞」＋難易表現)
問題 その 簡単 di-答える （直訳:その問題は解かれやすい。）
その問題が(アリには)解きやすい。

(24) a. Bagi Ali **sulit untuk** *membaca* novel ini. （「meng-他動詞」＋難易表現）
にとって アリ 困難 ために meng-読む 小説 この
アリにとってこの小説を読むのは難しい。(=アリにはその小説は読みにくい)
b. Novel ini **sulit** *dibaca*. (「di-動詞」＋難易表現)
小説 この 困難 di-読む （直訳:その小説は読まれにくい。）

この小説は(アリには)読みにくい。

以上の例からも object fucus によって、話者が一番言いたいことは被動作主の場合は、「di-動詞」構文を使うのは難易表現でも使えるということが分かった。

d. 願望の表現と共に使う「di-動詞」構文

最後に、「di-動詞」構文は ingin/mau のような願望の表現を表す助動詞と共に使える。これは、日本語の「～たい・～たがる」のような意味に近い。ただし、この場合、意味的には「meng-動詞」構文に対立できない。なぜなら、ingin/mau の助動詞は動作主（agent）か被動作主（patient）だけの願望を表すため、必ずしも一致しているとは限らないからである。

(25) a. Taro **ingin** *membunuh* Jiro. （「meng-動詞」＋願望表現）
太郎 ほしい meng-殺す 次郎
太郎が次郎を殺したがっている。
b. ??Jirou **ingin** *dibunuh* oleh Taro. （「di-動詞」＋願望表現）
次郎 ほしい di-殺す によって太郎 （直訳:次郎が太郎に殺されたい。）

(26) a. Nani **ingin** *dicium* (oleh) Ali. （「di-動詞」＋願望表現）
ナニ ほしい di-キスする によって アリ（直訳:ナニがアリにキスされたい。）
b. ??Ali **ingin** *mencium* Nani. （「meng-動詞」＋願望表現）
アリ ほしい meng-キスする ナニ
アリがナニにキスしたがっている。

例(25a)では、「殺したい」のは「太郎」であるが、「次郎」は「殺されたくない」かもしれないため、「di-動詞」構文に変えると、意味的には違うものになる。同じように、例(26a)では、「キスされたい」のはナニであるが、アリは必ずしもキスしたいとは限らないため、「meng-動詞」構文に変えると、意味が一致しているわけではない。このような「ingin +「di-動詞」構文」と「ingin +「meng-動詞」構文」は意味的には対立できないが、談話が伝えることによって選ぶようになる。

2.1.4 句レベル：目的語（patient）を修飾する「di-動詞」構文

インドネシア語の修飾語の構造[5]の 1 つは「修飾される語＋yang（関係詞）＋修飾する語」である。ある動詞が名詞を修飾する場合、その名詞が元の能動文で動作主か被動作主かによって動詞の形が異なる。動作主（agent）、自動詞文の主語（subject）を修飾する場合は「meng-動詞」構文を用いるのに対し、被動作主（patient）を修飾する場合は「di-動詞」構文を用いる。

(27) Ali *membeli* mobil mewah itu. （能動文:SVO）
アリ meng-買う 車 豪華な あの
アリがあの豪華な車を買った。

(28) a. **Orang yang** *membeli* mobil mewah itu (adalah) Ali. (agent focus)
人 関係詞 meng-買う 車 豪華な あの （は） アリ
あの豪華な車を買った人はアリだ。
b. **Mobil yang** *dibeli* (oleh) Ali (adalah) mobil mewah itu. (object focus)
車 関係詞 di-買う（によって） アリ（は） 車 豪華な あの
アリが買った車はあの豪華な車だ。
c. ***Mobil yang** *membeli* Ali (adalah) mobil mewah itu.
車 関係詞 mem-買う アリ （は） 車 豪華な あの
（直訳:＊アリを買った車はあの豪華な車だ。）

d. ***Orang yang** *dibeli* mobil mewah itu (adalah) Ali.
人　関係詞 di-買う　車　豪華な あの　(は)　アリ
(直訳: ＊あの豪華な車に買われた人はアリだ。)

例(27)での「meng-動詞」構文は、文の述語として扱うのに対し、例(28)での「meng-動詞」構文及び「di-動詞」構文は句レベル（名詞句）としての修飾語である。上の例から、動作主である「アリ」(28a)を修飾する場合は「meng-動詞」構文を使うが、被動作主である「車」(28b)を修飾する場合は「di-動詞」構文を使うということがわかる。もし、それらの動詞の形を入れかえると、例(28c)と(28d)のように非文となる。

なお、このように目的語（被動作主）を修飾する機能を果たす「di-動詞」構文は以下のように義務(29a)・禁止(29b)・許可(29c)、可能(3d)、難易(29e)、願望(29f)を表す表現と共に句レベルで使うことができる。

(29) a. **Buku yang** *harus dibaca* oleh Ali (adalah buku bahasa Jepang.)
本　関係詞 ～べき di-読む によって　アリ　は　本　言語　日本
(直訳: ＊アリに読まれなければならない本(は日本語の本だ))
アリが読まなければならない本(は日本語の本だ。)
b. **Daging yang** *tidak boleh dimakan* oleh Ali (adalah daging babi.)
肉　関係詞 ～てはいけない di-食べる によって　アリ　は　肉　豚
(直訳: ＊アリに食べられてはいけない肉(は豚肉だ。))
アリが食べてはいけない肉(は豚肉だ。)
c. **Buku yang** *boleh dibaca* oleh Ali (ada di atas meja.)
本 関係詞 ～でもいい di-読む によって アリ　ある に 上　机
(直訳: ＊アリに読まれてもよい本(は机の上にある。))
アリが読んでもかまわない本(は机の上にある。)
d. **Lagu Jepang yang** *bisa dinyanyikan* oleh Ali (menjadi populer.)
歌　日本　関係詞　できる di-歌う-kan　によって アリ　なる　はやる
(直訳: ＊アリに歌われられる日本の歌(ははやっている。))
アリが歌える日本の歌(ははやっている。)
e. **Bunyi yang** *sulit diucapkan* oleh Ali (adalah [za].)
音声 関係詞 難しい di-言う-kan によって　アリ　は 「ざ」
(直訳: ＊アリに言われにくい発音（は「ざ」だ。))
アリには言い難い発音(は「ざ」だ。)
f. **Amir yang** *ingin diajak* makan siang oleh Ali (sudah pulang.)
アミル関係詞 ～したい di-誘う　食事　昼　によって アリ　もう　帰る
(直訳: ＊アリに昼ご飯に誘われたがるアミル（はもう帰った。))
アリに昼ご飯に誘ってもらいたいアミル(はもう帰った。)

以上、「di-動詞」構文と「meng-動詞」構文の意味・機能を見てきた。「di-動詞」構文の機能・意味は、談話機能の中では「旧情報」を表し、object focus（目的語の焦点化）からは指令法(jussive)、敬意表現が派生する。さらに文・句レベルでは他の様々な表現と共によく使われる。それでは、「di-動詞」構文は本当に受身としての意味・機能もあるのか、次節で見ていく。

2.1.5 受身と見なされる「di-動詞」

『標準インドネシア語文法』[6]では、能動文と受動文との違いについて、能動文ではその文の主語が動作を行う側であるが、受動文では主語が動作（の影響）を受ける側であると述べられている。「di-動詞」で表現する受動文は、accusative passive（対格的受身）と言われており、能動文の「meng-他動詞」に対立するものである。能動文（他動詞文）の語順は「動作主

（agent）＋他動詞の能動態（meng-動詞）＋目的語（被動作主/patient）」（SVO）であるが、それを受動文に変えると、「被動作主（patient）＋受動態（di-動詞）＋（oleh/によって）＋動作主（agent）」（OVS）という語順になる。まず、次の例を見てみよう。

(30) a. Ali *memukul* **kepala Amir**.（能動文:SVO）
アリ meng-殴る 頭 アミル
アリはアミルの頭を殴った。
b. **Kepala Amir** *dipukul* (oleh) Ali.（受動文:OVS）
頭 アミル di-殴る (によって) アリ （直訳:アミルの頭がアリに殴られた。）
アミルはアリに頭を殴られた。

(31) a. Di dalam bis, pak guru *menyapa* **Ali**.（能動文:SVO）
で 中 バス 先生 meng-声をかける アリ
バス内で先生がアリに声をかけた。
b. Di dalam bis, **Ali** *disapa* (oleh) pak guru.（受動文:OVS）
で 中 バス アリ di-声をかける (によって) 先生
バス内でアリは先生に声をかけられた。

(32) a. Saya/anda/Amir *membeli* mobil Ali.
私 あなた アミル meng-買う 車 アリ
私/あなた/アミルがアリの車を買った。
b. Mobil Ali *dibeli* (oleh) *saya/*kamu/Amir.
車 アリ di-買う (によって) 私 あなた アミル
？アリの車は＊私/＊あなた/アミルによって買われた。

以上の例は受身と見なされる「di-動詞」構文である。これらの例を見ると、被動作主（patient）には生物や無生物もなれる。また、動作主を見ると、第一人称と第二人称名詞は使えないということがわかった。

このような受身と見なされる「di-動詞」構文は、今まで見てきた object focus と違う点は次のようである。まず、指令法（jussive）や丁寧さ（politeness）のようなプラグマティックな意味がないということである。この場合はある出来事を描写するためだけである。次に、動作主は三人称名詞に限られており、一人称名詞と二人称名詞は使えない。最後に、「中立」か「迷惑」といった意味が動詞自体の意味や文脈により生じる。例(31b)のような場合は、場面によって中立(望ましいこと)の意味とも迷惑の意味とも可能である。

2.2 インドネシア語における他の受身表現との比較

インドネシア語における受身については、Van Wijk（1909）、Alisjahbana（1949）、Keraf（1970）、Chung（1976）、Verhaar（1983）、Kaswanti（1988）などによって以前から議論されてきた。まず、Van Wijk（1909=1985：79）は、インドネシア語の受動態は「di-動詞」構文、「ter-動詞」構文、「φ動詞」構文、「ke-|-an」構文という４つのタイプがあるとしている。一方、Alisjahbana（1949：63）は、「di-動詞」構文と「φ動詞」構文を指摘し、さらに両方とも動作主として第一・二・三人称が自由に使えるとしている。次に、Keraf（1970：103）は、「ヨーロッパの諸言語には、能動態と受動態が存在するため、インドネシア語学者はそれに対応するインドネシア語では、「meng-動詞」構文と「di-動詞」構文が一番近いので、{ku-}や{kau-}のような『φ動詞』

構文で表現するものは受身ではない」と主張し、インドネシア語の受身は「di-動詞」構文だけであるとしている。この Keraf（1970）の考え方は 80 年代の後半までインドネシア語文法の教科書などにもよく見られた。

しかし、現代の規範文法（Alwi 1998：345）『標準インドネシア語文法』では、基本的に、「di-動詞」構文を使うものと、「φ動詞」構文を使うものとが紹介されている。前者は「**P+di 動詞+（oleh） A**」という語順を取り、その動作主（agent）は上で見たように第三人称及び固有名詞に限られる。それに対し、後者は「**P+A+φ他動詞**」という語順を取り、その動作主は第一・二・三人称名詞（固有名詞は不可能）に限られる。書き言葉や改まった場面では「di-動詞」構文の受身の方をよく使うが、日常的な会話では「φ動詞」構文の受身の方をよく使うと言われている。また、動作主がわざと自分の意志で動作を行うという前提であれば、「di-動詞」構文で表すが、無意志的な動作あるいは偶然に行うという前提であれば、「ter-動詞」構文で表現する。さらに、結果的に、いやな動作や望ましくない事柄を表す場合は「ke-|-an」構文で表す（p.348）。つまり、現代インドネシア語の受身文と思われる構文は、「di-動詞」構文、「φ動詞」構文、「ter-動詞」構文、「ke-|-an」構文という４つのタイプがある。それぞれの例は以下のようである。

(33) a. Mereka *membunuh* pak Dali.　（能動文:「meng-動詞」構文）
　　彼ら　meng-殺す　さん ダリ
　　彼らがダリさんを殺した。
　b. Pak Dali *dibunuh* oleh mereka.　（受動文:「di-動詞」構文）
　　さん ダリ　di-殺す　によって 彼ら
　　ダリさんが彼らによって殺された。
　c. Pak Dali mereka *bunuh*.　（受動文:「φ-動詞」構文）
　　さん ダリ　彼ら　φ殺す
　　ダリさんを彼らが殺した。
　d. Pak Dali *terbunuh* (oleh mereka).　（受動文:「ter-動詞」構文）
　　さん ダリ　ter-殺す　によって 彼ら
　　彼らがダリさんを殺してしまった。
　e. *Pak Dali *kebunuhan* (oleh mereka).　（受動文:「ke-|-an」構文）
　　さん ダリ ke-殺す-an　によって 彼ら

以上の例からわかるように、４種類の受身[7]と呼ばれるもののうち、それぞれの固有制限があるため、自由には交代できない。例えば、「di-動詞」構文と「φ動詞」構文の受身には agent（動作主）の制限があり、「ter-動詞」構文では、意味的に受身からずれるものがあり、「ke-|-an」構文の場合は動詞が殆ど使えない。

まず、「ke-|-an」構文の受身は hujan（雨）、angin（風）のような名詞と、dingin（寒い）、panas（暑い）のような形容詞以外は用いられることが少ない。動詞を「ke-|-an」構文にした場合は、例えば、mati（死ぬ）は kematian（死ぬこと）になっており、受身と言うよりも、その動詞を名詞化するという共接辞の機能のほうが強い。また、Ayah *kehujanan*（父は雨に降られる）、Ayah *kedinginan*（父が寒さを感じる）のような文では、動作主もなく、対応する能動文もない。さらに、その述語は名詞であるため、受身とは言えない。

次に、「φ-動詞」構文の場合は無標であるし、動作主句も脱焦点化できないという点で、「di-動詞」構文(33b)と「ter-動詞」構文(33d)に比べると、より受身らしくないものとなる。また、「di-動詞」構文と「ter-動詞」構文の場合は、動作主の脱焦点化としては意味が近いが、他動性の低い動詞に変えると、「ter-動詞」構文の場合は terbunuh(33d)のように例(33a)の意志的な能動文として用いることができない。これらのことからもっとプロトタイプ的な受身表現はやはり「di-動詞」構文であると考えられる。

2.3「di-動詞」構文と「（ら）れる」との対照

インドネシア語の「di-動詞」構文の意味・機能は2.1で見てきたが、それを日本語の「（ら）れる」表現に比較し、どのような類似点・相違点があるかを見ていく。日本語の「られる」は、受身・自発・可能・尊敬の意味を表すが、本稿では、「di-動詞」構文に対応するものと考えられる「受身・可能・尊敬」を対象にして分析していく。「di-動詞」構文と「（ら）れる」との違い・距離を見出すために、①分裂、②新規、③欠如、④融合、⑤一致という学習難易階層（小柳2004：53）を参考にする。例えば、「di-動詞」構文では１つの項目だけであるが、「られる」では、2つの項目となる場合を「分裂」と言い、逆に「di-動詞」構文では2つの項目であるが、「られる」では、１つの項目となる場合を「融合」と言う。次に、インドネシア語「di-動詞」構文にはない項目が「られる」には存在する場合を「新規」と言い、逆に「di-動詞」には存在する項目が「られる」には存在しない場合を「欠如」と言い、両方とも１対１になる場合を「一致」と言う。

2.3.1 情報構造としての「di-動詞」との対照

まず、2.1.1で見てきたように、「di-動詞」構文の意味・機能の１つは情報構造では旧情報（既知情報）を表すものである。それに対して、新情報（未知情報）は「meng-動詞」構文で示す。さらに、例(7)、(8)のように言語表現では新情報としてのもの（被動作主）はまだ不特定（indefinite）であるのに対し、旧情報になったもの（被動作主）は特定（definite）である。一方、日本語の情報構造は「られる」動詞か「る」動詞かは関係なく、助詞「が」と「は」によって「新・旧情報」を表すと言われている。つまり、このように旧情報を表す「di-動詞」構文の意味・機能は日本語の「られる」には見られないため、「欠如」と言えるであろう。

2.3.2 談話―プラグマティック・レベルとしての「di-動詞」構文との対照

次に、2.1.2で述べたように談話―プラグマティック・レベルでは「meng-動詞」構文は subject focus（動作主の焦点化）であり、「di-動詞」構文は object focus（被動作主の焦点化）と action focus（動作自体の焦点化）である。インドネシア語の表現では、話者の最も言いたいこと、つまり動作主・被動作主・動作自体が文頭に置かれる。そのため、subject focus, object focus, action focus が用いられる。さらに、日常的な言語使用では、object focus の「di-動詞」構文が頻繁に使われることにより、jussive（指令法）と politeness（丁寧さ）を表すようになる。

a. Jussive（指令法）としての「di-動詞」と「られる」との対照

「di-動詞」構文の意味・機能の１つは、jussive（指令法）を表すものであるが、日本語では、命令文は主に聞き手に直接に能動態で表現され、「られる」にはこのような意味・機能がないと考えられる。従って、「di-動詞」構文で表す jussive（指令法）のような意味・機能を日本語の「られる」の意味・機能と比べれば、「欠如」ということになる。

b. 丁寧さ（politeness）を表す「di-動詞」

2.1.2.b で述べたように、「di-動詞」構文で表現する文は丁寧さというニュアンスを含む。例(15)～(17)で見たように、object focus から派生したものであると考えられる。一方、日本語では、「お茶が入りました」のような表現があり、自分がやったことを隠すために、自動詞文を使う場合もある。しかし、尊敬の意味は主に「られる」敬語を使う。日本語の「られる」も「di-動詞」構文も同じように丁寧さ（敬意）を表すものがあるが、文の構造を見れば、敬語の場合は能動文の構造をとるので、「られる」受身の構文とは違う。しかし、「di-動詞」構文では受動文の構文を取り、主語は被動作主（patient）であるのに対し、「られる」の敬語表現の主語は動作主であることが大きな相違である。

インドネシア語には、日本語のように謙譲語や尊敬語などのような敬語が存在しない。例えば、日本語の「食う・食べる・召し上がる・食べられる」のような語の全ては makan しか対応しない。文や発話の丁寧さは文法的に正しい文（標準語の基準）やイントネーション・話者の表情によると言われている。従って、日本語の「られる」で表す尊敬語は必ずしも「di-動詞」構文で表現できるとは限らない。次の例を見てみよう。

(34) a. 先生は今朝の新聞を<u>読まれました</u>か。
b. Bapak sudah *membaca* koran pagi? （読む）
c. **Koran pagi** sudah *dibaca*? （読まれる）

(35) a. 先生は私の論文を<u>読まれました</u>か。
b. Bapak sudah *membaca* skripsi saya? （読む）
c. **Skripsi saya** sudah *dibaca*? （読まれる）

(36) a. 先生も<u>行かれます</u>か。
b. Bapak juga akan *pergi*? （行く）
c. *Bapak juga akan *dipergi*? （行かれる）

上の日本語の例は尊敬を表す文であるが、インドネシア語には対応する文はない。それらの文の敬意を表すためには、例(34b)、(35b)、(36b)のように「meng-動詞」構文を使って、小さい声でかつ笑顔を見せながら言えば、その丁寧さが感じられる。それでは、例(34c)と(35c)の丁寧さはどうであろうか。これは場面によって、例(34b)、(35b)と例(34c)、(35c)との違いがわかる。つまり、その動作に話者と聞き手との関係がある場合は、例(34c)、(35c)の方がより丁寧と感じる。例えば、例(34a)の「先生は今朝の新聞を読みましたか」は(34b)では、「そ

の新聞に面白い記事が載っていますよ」などの意味を含み、subject focus として先生の動作を述べる。それに対して、例(34c)では、「今朝の新聞を読んだら、私が読んでもいいですか」という意味を含み、object focus として、その動作は話者との関係があることを表す。次に、例(35b)と(35c)の違いは、例えば、学生が指導教官と面談している時、例(35b)を言うと、「前に出したのに、どうしてまだ読まないのですか」というニュアンスを含むのに対し、例(35c)を言うと、「次の面談はいつですか・内容はいかがでしょうか」という意味を含み、例(34c)、(35c)のほうが話者との関わりがあるため、丁寧さが感じられる。例(36c)が言えないのは、すでに述べたように「di-動詞」構文は他動詞しか使えないからである。

以上で、全ての「られる」で表現する尊敬語が「di-動詞」構文に対応するわけではないが、両言語における敬意表現は動作主が行う動作の負担（責任）を軽くするための表現であることが考えられる。尾上（2003：37）は、尊敬を表す「られる」については、「出来スキーマを用いて事態の発生・生起として語ることによって、動作主の意志的行為であるというナマナマしさを消し（意志性消去）、それによって動作主の高貴さを維持しようとする表現である」[8]と述べている。一方、「di-動詞」構文の場合も、object focus（目的語の焦点化）によって、動作主の動作が薄くなり、負担も低く感じるので、この機能の関係は一部的に「一致」と言えるであろう。

2.3.3 文レベル：様々な表現と共に自由に使える「di-動詞」構文との対照

2.1.3 で述べたように「di-動詞」構文は object focus（被動作主の焦点化）であるために、禁止・義務・許可・願望などの様々な表現と共に自由に使用できる。しかし、日本語の「られる」は、これらの表現と共に使うことは殆ど見られない。ただし、「お前、殴られたいのか？」のような願望の表現と共に使う場合は、「di-動詞」構文の“Kamu, ingin dipukul?”に対応している。これは「お前は、俺によって殴られたいのか？」にも「お前は（他人によって）殴られたいのか？」のような意味にもなる。このように「di-動詞」構文は様々な表現と共に用いられるが、「られる」には自由には使えないため、部分的に「欠如」ということになる。

2.3.4 句レベル：目的語を修飾する「di-動詞」との対照

まず、2.1.4 で述べたように、被動作主を連体節で修飾するために「di-動詞」構文を用いるが、動作主を連体節で修飾するために「meng-動詞」構文を用いる。つまり、主名詞は元の能動文では、動作主（agent）か被動作主（patient）かによって、連体節が「meng-動詞」構文か「di-動詞」構文が決まるわけである。例(29)～(31)のように名詞を修飾する「di-動詞」は他の表現と共に使われるが、日本語の「られる」では、殆ど見られないため、部分的に「欠如」となる。

2.3.5 日本語の受身文との対照

本節では、2.1.5 で述べた受身としての「di-動詞」構文を日本語の受身と比較するため、直接受身と間接受身に分けて見ていく。

a.　直接受身との対照

すでに見たように「di-動詞」構文の受身は、有情物も無情物も被動作主（patient/P）として自由に受動文の主語になれる。一方、日本語の直接受身の場合、後に見るように無情物には制約があり、文の主語には自由になれない。次表はインドネシア語文と対応する日本語の例である。

表１：「di-動詞」と「られる」との対照その（1）

No	インドネシア語の「di-動詞」の例 「A di-V (oleh) P」	日本語の「(ら)れる」の例 「A が P に V-られる」	対照型
(37)	a.　Taro *membunuh* Jiro. (能動文) b.　Jiro *dibunuh* (oleh) Taro. (受動文)	a.　太郎が次郎を殺した。(能動文) b.　次郎が太郎に殺された。(受動文)	一致
(38)	a.　Guru *memuji* Hanako. b.　Hanako *dipuji* (oleh) guru.	a.　先生が花子をほめた。 b.　花子は先生にほめられた。	一致
(39)	a.　Kaula muda *mencintai* lagu ini. b.　Lagu ini *dicintai* oleh kaula muda.	a.　若者がこの歌を愛している。 b.　この歌は若者に愛されている。	一致
(40)	a.　Ali sedang *membaca* novel itu. b.　Novel itu sedang *dibaca* (oleh) Ali.	a.　アリがその小説を読んでいる。 b.　＊その小説はアリに読まれている。	欠如
(41)	Novel ini sering *dibaca* oleh Bill Clinton.	その小説はクリントン大統領に何度も読まれた(ものである)。	一致

以上の例では、構造的には、被動作主句（P）が受動文の主語になっており、さらに動作主句（A）は両方とも随意的要素であるが、話者の意図によって agent を明示的に表す場合もある。また、例(40b)のように、「di-動詞」構文の受身では、novel itu（その小説）のような無情物でもそのまま主語になるが、「られる」の受身ではできない。一方、例(39b)のように「この歌」は、そのまま主語になれるのは、特殊な事柄を表すものであるからである。高見（1995：99）は、このような受動文を説明するために、特徴づけ（characterization）という考え方で説明できると指摘している。これは動作主によって、容認も可能である。例文(40b)での動作主の「アリ」がいくらその小説を読んでも、その小説に何の影響も及ばないため、非文となると考えられる。一方、例(41)のような偉人である「クリントン大統領」がその小説を読んだとすれば、その小説が有名になったり、よく売れるようになったり、宣伝になったりすることで、特徴付けられると解釈できる。言い換えれば、無情物を受動文の主語にする場合は、「られる」では、特徴づけが必要であるが、「di-動詞」構文の場合は必要ない。以上のように「di-動詞」構文を「られる」の直接受身に比べた結果、殆ど「一致」していると考えられる。

b. 間接受身との対照

受身としての「di-動詞」構文を間接受身に比較するために、①他動詞からの間接受身と②自動詞からの間接受身に分けることができる。

①　他動詞からの間接受身との対照

他動詞からの間接受身を、(a)所有受身と、(b)所有以外の受身にわける。

(a) 所有受身（身体受身）との対照

次の表で示した例を見てみよう。

表２：「di-動詞」と「られる」との対照その（2）

No	インドネシア語の「di-動詞」の例 「A di-V (oleh) P」	日本語の「(ら)れる」の例 「A が P に O を V-られる」	対照型
(42)	a. Laki-laki itu *mencuri* tas saya. (能動文) b. Tas saya *dicuri* (oleh) laki-laki itu.	a. あの男が私の鞄を盗んだ。(能動文) b. ？私の鞄はあの男に盗まれた。 c. 私はあの男に鞄を盗まれた。	分裂 (文型)
(43)	a. Kaki saya *diinjak* orang sebelah. b. Kaki saya *terinjak* (orang).	a. ？私の足が隣の人に踏まれた。 b. 私は隣の人に足を踏まれた。	融合 (意味)
(44)	Buku harian saya *dibaca* oleh ibu.	a. ？私の日記は母に読まれた。 b. 私は母に日記を読まれた。 c. 母が私の日記を読んで、私が嬉しい。	新規 (恩恵の意味)

以上の例の構造を見ると、「di-動詞」構文の受身は直接受身、つまり、被動作主句（P）をそのままで受動文の主語（S）となるのに対し、日本語の「（ら）れる」では間接受身、つまり、被動作主句（P）を「所有者」（主語）と「所有物」（目的語）に区別する必要がある。ただし、ここでいう「主語（S）」は「di-動詞」構文の受身では、「所有物＋所有者（所有物を修飾する語）」を指す patient を指すのに対し、「（ら）れる」では、「所有者」だけを patient として指すものであるが、「所有物」は「所有者」（patient）から離れて、別の目的語（0）として扱うことになる。つまり、このような受身では必須項増加が起こるため、構造的に「分裂」と言える。日本語では、所有物よりも所有者の方が受身文の主語になりやすいからである。これは間接受身の特徴の１つであると言われている。

なお、意味的に間接受身は、主に「迷惑・被害」の意味を表すための表現であり、主語である「所有者」が間接的に「動作主（A）が対象（0）に対する動作を行った」結果・影響を受けるという捉え方である。この捉え方は人間性の視点ハイアラーキーで説明できる（高見　1995：92)。つまり、話者の視点から間接受身の主語になりやすいもの（被害の受け手）は、話者から一番近い方から遠い方へ並べると、「話者（一人称）⇒二人称⇒三人称⇒有情物（動物）⇒無情物」になる。一方、インドネシア語の場合はこのような考え方がない。さらに、意味的に被害か恩恵かについては、場面や動詞自体の意味によるものである。例(44)の場合は、自分の日記が母に読まれるのは嫌であったら、嫌な表情で言うことになる。逆に、お母さんに言えないことがあるので、日記を読まれることで、お母さんが私の気持ちがわかるようになると思う人は、嬉しそうな表情でその文を言うという解釈も可能である。つまり、「di-動詞」構文の受身では、中立の意味も迷惑の意味も両方とも可能であるのに対し、「られる」では迷惑しかないため、恩恵を表す意味は、次節で見るように「～てもらう」を使うので、「新規」となることが考えられる。さらに、例(43)のように、インドネシア語では意志的動作か無意志的動作の区別があるが、この場合、「られる」にはないため、「融合」となる。

(b) 所有受身以外のものとの対照

所有受身以外のものは次のような例がある。

表３：「di-動詞」と「られる」との対照その（3）

No	インドネシア語の「di-動詞」の例 「A di-V-kan O (oleh) P」	日本語の「(ら)れる」の例 「A が P に O を V-られる」	対照型
(45)	Saya *dimainkan* piano oleh adik sampai larut malam.（恩恵）	a. 私は夜遅くまで妹にピアノを弾かれた。（迷惑） b. 私は夜遅くまで妹にピアノを弾いてもらった。(恩恵)	欠如 新規
(46)	Saya *diajarkan* bahasa Jepang oleh Pak Yamamoto.（恩恵）	a. 私は山本先生に日本語を教えられた。(中立・迷惑) b. 私は山本先生に日本語を教えていただいた。（恩恵）	欠如 新規
(47)	Ali *dibacakan* huruf Kanji oleh Taro. （恩恵）	a. アリは太郎に漢字を読まれた。(中立・迷惑) b. アリが太郎に漢字を読んでもらった。（恩恵）	欠如 新規

以上の例で、意味的に「di-動詞-kan」構文では恩恵を表現するものであるが、日本語の「られる」の場合、これらの文では恩恵の意味が存在しないため、「欠如」となる。さらに、「di-動詞-kan」構文で表現する恩恵の意味は日本語の「～てもらう」に対応するものであるため、新しい意味（恩恵の意味）が発生し、「新規」となる。もし、例(45)～(47)を迷惑・嫌な気持ちを表す表現にするなら、「meng-動詞-kan」構文を使って、嫌な表情を見せながら言うことになる。また、構造的にはこのタイプの動詞は二重他動詞であるため、項数だけでは「られる」も「di-動詞-kan」構文も同じである。

② 自動詞からの間接受身との対照

次に、自動詞からの間接の受身について、筆者は以下のように（a）「di-動詞」構文で表現できるものと（b）「di-動詞」構文で表現できないものとを区別する。

(a) 「di-動詞」構文で表現できる自動詞からの間接受身

このタイプの受身は、「行く・出かける・帰る・逃げる・休む・死ぬ」などのような「動作主（agent）が普段ある場所に存在することから存在しないようになる、つまり、被動作主と同じ場所に存在することかた存在しないようになる状態」を表す自動詞を述語とする受身に限る。仮に、これらの動詞を Vx とすれば、インドネシア語では、「ditinggal Vx」(残されて Vx) という形になる。次の例を見てみよう。

表４：「di-動詞」と「られる」との対照その（4）

No	インドネシア語の「di-動詞」の例 「A ditinggal Vx O (oleh) P」	日本語の「(ら)れる」の例 「A が P に Vx-られる」	対照型
(48)	Saya *ditinggal mati* oleh ayah dua tahun yang lalu.	私は 2 年前、父に死なれた。	融合
(49)	Ali *ditinggal pergi* oleh istrinya dua bulan yang lalu.	アリは、2 ヶ月前から、奥さんに出かけられた。	融合
(50)	Saat sibuk, ayah malah *ditinggal libur* oleh bawahannya.	忙しい時、父は部下に休まれた。	融合

上の例では、「di-動詞」の ditinggal mati（48）、ditinggal pergi（49）、ditinggal libur（50）はそれぞれ２つの動詞であるが、「られる」では、「死なれる・出かけられる・休まれる」という１語に対応するため、「融合」と言えるであろう。さらに、すでに述べたようにインドネシア語の

受身では、恩恵か迷惑の意味は動詞自体の意味によるものであるため、このような“ditinggal…”(残される）は迷惑・嫌な気持ちであるため、「られる」受身と似ている。

(b) 「di-動詞」で表現できない自動詞からの間接受身

次の表で示した日本語の「られる」の例は、「di-動詞」構文では表現できない。

表５：「di-動詞」と「られる」との対照その（5）

No	インドネシア語の「di-動詞」以外の表現	日本語の「(ら)れる」の例「A が P に V-られる」	対照型
(51)	a. Dia *kehujanan*. (「ke-|-an 構文」) b. Dia *keanginan*. (「ke-|-an 構文」)	a. 私は雨に降られた。 b. 彼が風に吹かれた。	新規
(52)	a. Karena anak *menangis*, saya tak bisa tidur. (能動態) b. Karena orang di depan *berdiri*, saya tak bisa melihatnya. (能動態)	a. 私は子供に泣かれて、眠れなかった。 b. 私は前の人に立たれて、見えなかった。	新規
(53)	a. Karena tetangga *membangun* dua lantai, kamar saya jadi gelap. (能動態) b. Karena orang sebalah *merokok*, saya jadi batuk. (能動態)	a. 私は隣の人に2階を建てられて、部屋が暗くなった。 b. 私は隣の人に煙草を吸われて、席が出た。	新規

上の例のように、自動詞からの間接受身は「di-動詞」構文では表現できないが、他の形で表現する。例(51)と(53)のように能動態でしか表現できない場合もあるし、例(51)のように「ke-|-an」構文で表現できる場合もある。前節で分析したように、これらの文ではある状態を表すためのものであり、受身とは言えない。このタイプの文は、「di-動詞」構文にはない項目であるが、「られる」には存在する項目であるため、「新規」と言えるであろう。

2.3.6 まとめ

以上での「di-動詞」構文と「られる」との対照の結果が以下の表のようにまとめられる。

表６:「di-動詞」と「られる」との対照の結果

No	意味・機能	「di-動詞」		「られる」		学習難易度階層
1	構造情報(旧情報)	O		X		欠如
2	プラグマティック・レベル					
	a. jussive (指令法)	O		X		欠如
	b. politeness(丁寧・敬意)	O		O		一致
3	文レベルの構造	O		△		欠如(部分的)
4	句レベルの構造	O		△		欠如(部分的)
5	受身	項数の変化	意味	項数の変化	意味	
	1. 直接受身	0	2:動詞による	0	2:動詞による	一致
	2. 間接受身					
	a. 他動詞からのもの					
	(1) 所有受身	0	2	＋1	1:迷惑	分裂 (+新規)
	(2) 所有以外のもの	0	2	＋1	1:迷惑	分裂 (+新規)
	b. 自動詞からのもの					
	(1)「di-V」訳可能	2つの動詞	2	1つの動詞	1:迷惑	融合
	(2)「di-V」訳不可能	別の表現	2	「られる」	1:迷惑	新規

注：O：存在する、X:存在しない、△：部分的にある、1:迷惑だけの意味、２：両方とも可能

上の表で見られるように、「di-動詞」構文と「られる」との間には相違点が様々あるため、学習者の困難となると考えられる。

3. インドネシア人学習者による「（ら）れる」の誤用調査

前節で分析した「di-動詞」構文と「られる」との対照の結果からは、学習者による「られる」の誤用は以下のような場合に起こるであろうと予測することができる。

a. 旧情報としての「di−動詞」構文をそのまま「られる」に訳す。（情報構造）

b. 「di-動詞」を含むインドネシア語の文を、そのまま他の表現と共に「られる」表現に訳す。（文レベル）

c. 主名詞を修飾する連体節中の「di-動詞」をそのまま「られる」に訳す。（句レベル）

d. 恩恵の意味を表す「di-動詞」構文を「られる」受身に訳す。（受身１：恩恵と迷惑との混同）

e. 所有受身で使う「di-動詞」を「られる」受身に表現するとき、持ち物を持ち主から区別せずに、項の増加がない。（受身２：直接受身と間接受身との構造の混同)

以上のような誤用が起こるかどうかを検証するために、翻訳の調査を行った。学習者の非用（回避）を防ぐために、「di-動詞」構文を含むインドネシア語の文章レベルを日本語に訳させ、さらに逆に日本語の「られる」を含む文章をインドネシア語に訳させるという調査を行った。

3.1 調査の手順

本調査は上記で予測された誤用が起こるかどうかを検証するために、2006 年 5 月の中旬にインドネシア教育大学の日本語学習者（１年生：13 名、２年生：13 名、３年生：24 名、４年生：14 名）を対象として行った。調査では「di-動詞」構文と「られる」を含む文章を日本語及びインドネシア語に翻訳させた（資料（２）を参照)。対象者はまずインドネシア語の文章を日本語に訳させる作業を 30 分行い、５分程休憩した後、日本語の文章をインドネシア語に直させる作業 を 30 分行った。さらに、学習者の誤用に関する理由・原因を知るために、被験者の一部にインタビューを行った。

3.2 調査の結果

本節では、学習者の誤用及び正用を分析した結果を述べ、さらにインタビューの結果に基づき、それらの誤用・正用が起こった原因について記述する。まず、上で述べた学習者による誤用の予測を検証するために、誤用分析を行う。次に、学習者による正用も分析し、その原因について記述する。

学習者による誤用は主にインドネシア語から日本語に訳す際、「di-動詞」構文を含む文を日本語の「られる」に訳す際に起こった(資料（３）を参照)。一方、日本語からインドネシア語に訳す場合は、誤用があまり見られないが、特に中級レベルの学習者が「られる」をインドネシア語に訳す際、そのまま「di-動詞」に訳すだけではなく、談話のレベルを考えて、「meng-動詞」、「ter-動詞」などに訳すという例が多く見られた。

3.2.1 インドネシア語から日本語への訳

まず、「di-動詞」構文を含むインドネシア語の文を日本語に訳すときの誤用は以下のように区別できる。

a. 情報構造：object focus としての「di-動詞」を「られる」に訳す（情報構造）

この場合は予測したとおり、学習者が「di-動詞」構文を含む文をそのまま日本語の「（ら）れる」に置き換えている。次の表で示したものはその一部である。

表７：学習者の誤用その(１)

No	学習者による誤用	学年	F (%)	正答・原因
(54)	(Ia marah, lalu **kucing itu** *ditendangnya*.) 彼が怒って、その猫がアリにけられた。	1 年	13/13 100%	猫をけった 母語干渉
(55)	(**Buku itu** selalu *saya baca* setiap hari.) その本はいつも私に読まれます。	2 年	3/13 23.08	読む(能動態) 母語干渉
(56)	(**Obat** yang diterima dari dokter *diminumnya* setiap hari.) 毎日、医者からもらった薬を彼に飲まれた。	3 年	14/24 58.33%	飲む(能動態) 母語干渉
(57)	(**Pinsil** yang dibeli oleh Ali itu *diberikan* pada seseorang.) アリが買った鉛筆が誰かにあげられた。	4 年	3/12 25%	あげた(能動態) 母語干渉

以上の例はそれぞれ「アリが怒って、その猫をけっ（てしまっ）た」、「私は毎日その本を読んでいる」、「彼は医者からもらった薬を毎日飲んでいる」、「彼が買った鉛筆を誰かにあげた」のような能動文に訳すのが自然である。しかし、インドネシア語では、話者の最も言いたいことを object focus によって文や節の主語にする必要があるため、「di-動詞」構文で表現される。これらの例では、「kucing itu（その猫）」、「buku itu（その本）」、「obat（薬）」、「pinsil（鉛筆）」の名詞句は、特定（definite）でもあるし、また、前文との関係を見れば、「旧情報」とも考えられ、これらの名詞句を焦点化するため、そのまま日本語の「られる」に訳してしまう。

b. 談話―プラグマティック・レベル：(jussive と politeness)

この場合の問題の対象者は３年生、４年生に限られたため、以下の表で示したように学習者の誤用が見られなかった。

表８：学習者の誤用その(２)

No	学習者による誤用・正用	学年	F (%)	正答・原因
(58)	（先生、どうぞ召し上がってください。） Silahkan *dicicipi/dimakan*, Pak!	3 年	13/13 100%	習得している
(59)	(Silahkan dimakan!) どうぞ、召し上がってください。 （残りは「どうぞ、食べてみてください。」又は「どうぞ」）	4 年	4/13 30.77%	習得している

まず、３年生は、殆ど日本語の「どうぞ召し上がってください」をインドネシア語の「Silahkan *dimakan/ dicicipi!*」に訳した。逆にインドネシア語の「Silahkan *dimakan!*」を日本語の「召し上がってください」に訳した学習者は４年生の中で、たった 4/13（=30. 77%）である。そのほかに、「食べてみてください」や「どうぞ」という答えがあった。これは、学習者は文脈を見てから決める。つまり、文脈が親しい友達に対する待遇を示しているので、敬語を使う必要はな

いという理由で「召し上がる」を使っていないということがわかった。

c. 「られる」を他の表現と共に使う（文・句レベル）

この項目は１年生以外、２年生から４年生までを対象者とした。この場合の誤用は予測したとおりに出てきたが、その一部を次の表で示す。

表９：学習者の誤用その（３）

No	学習者による誤用	学年	F (%)	正答・原因
(60)	(…tugas yang harus *dikerjakan*) やられなければならない宿題。	2 年	2/13 12.38%	やらなければならない宿題 母語干渉
(61)	…huruf Kanji yang　tidak bisa dibaca 読められない漢字…	2 年	3/13 38.46%	読めない漢字 母語干渉
(62)	Obat yang *diterima* dari dokter… 医者からもらわれた薬…	3 年	2/24 8.33%	医者からもらった薬 母語干渉
(63)	Orang yang *diberi*　pinsil oleh　Ali… アリに鉛筆をあげられた人は…	4 年	3/12 25%	アリが鉛筆をあげた人 母語干渉

インドネシア語では、主名詞を修飾する連体節中の「di-動詞」は他の表現と共に自由に用いられるため、以上のような誤用が起こったわけである。上の誤用例(60)では、「やらなければならない」という動詞句は「宿題」を修飾し、例(61)では、「読めない」は「漢字」を修飾し、例(62)では、「もらった」は「薬」を修飾し、例(63)では「アリが鉛筆をあげた」は「人」を修飾するはずであるが、それぞれの連体節は動作主以外の主名詞を修飾するため、インドネシア語では「di-動詞」で表現する。その影響で学習者はそれらの「di-動詞」構文をそのまま日本語の「られる」に移していると考えられる。

d. 恩恵の意味を表す「di-動詞」構文と迷惑を表す「られる」との混同（受身 1）

この場合は予測したように学習者が恩恵と迷惑の使い分けが理解できないという原因で、次のような誤用が起こった。

表 10：学習者の誤用その（４）

No	学習者による誤用	学年	F (%)	正答・原因
(64)	(Ia *dibelikan* ikan kesukaannya oleh ibunya.) 彼はお母さんに好きな魚を買われた。	1 年	5/13 38.46%	買ってもらった 母語干渉
(65)	(Saya *diajarkan* bahasa Jepang oleh Morinishi sensei.) 私は森西先生に日本語を教えられました。	2 年	4/13 30.77%	教えていただいた 母語干渉
(66)	(oleh dokter Ali *diberi* obat.) アリは医者さんに薬をあげられた。	3 年	2/24 8.33%	もらった 母語干渉
(67)	(Tapi oleh ayah **malah** *dibelikan* kamus biasa.) 父に普通の辞書を買ってもらった。	2 年	10/13 76.92%	買われ(てしまっ)た 母語干渉

例(64)～(67)での「di-動詞」は意味的に恩恵を表すものであるが、例(67)では malah（むしろ）という語を付けたため、嫌なことを表すことになる。しかし、学習者が主に、恩恵を表す「～てもらう」と迷惑を表す「られる」の使い分けを理解していないため、誤用が起こったと考えられる。つまり、「～てもらう」を使うべきところを「られる」で表現してしまい、逆に例(67)のように「られる」で表現すべきものを「～てもらう」を使ってしまうという誤用である。

e.　日本語の間接受身の構造と「di-動詞」構文の(直接受身)構造との混同（受身２）

日本語の間接受身は能動文に比べると項数の増加が起こるが、「di-動詞」構文で表現する受身にはこのような現象がないため、予測した通り、学習者が間接受身で表現すべきものを直接受身で表現してしまうという誤用が起こっている。

表 11：学習者の誤用その(５)

No	学習者による誤用	学年	F (%)	正答･原因
(68)	**Kepala Ali** *dipukul* oleh Amir. アリの頭がアミルに殴られた。	1 年	7/13 53.85%	(間接受身) 母語干渉
(69)	**Kakinya** *digigit* (oleh) anjing. 彼の足が犬に噛まれた。	3 年	4/24 16.67%	(間接受身) 母語干渉

前節で、述べたように日本語の所有受身では、所有者と所有物を区別して、それぞれ受身文の主語と受身文の目的語とに項が分かれ、項数の増加が起こる。一方、インドネシア語にはこのような間接受身がないため、学習者はそのまま、所有物と所有者を一項（一語）として受動文の主語にしてしまうということがわかった。このような誤用が起こったのは、主に初級レベルの学習者に限られる。誤用した３年生の学習者にインタビューを行ったところ、「文型の規則がわかったが、うっかりした」あるいは「すっかり忘れてしまっていた」と述べていたから考えると、普段意識できないエラー（ケアレス・ミス）なのであろう。

3.2.2 日本語からインドネシア語への訳

日本語からインドネシア語への翻訳の調査の結果では、誤用はあまり見られなかった。なぜなら、学習者がインドネシア語では自由に内容を述べられるからである。学習者は日本語の「られる」を「di-動詞」構文だけではなく、「meng-動詞」構文、「ter-動詞」構文、「ke-|-an」構文に訳して、主語の位置の交代を行うなどの方法によって自然なインドネシア語の文を書いていた（資料(３)b を参照)。

例えば、１年生の場合は、「太郎は次郎が先生にほめられたことが嫌だった」の「ほめられたこと」を“Dengan *dipujinya* Jiro…”の dipujinya（10/13=76. 92%）、“*Pujian* guru terhadap Jiro…”の pujian（3/13= 23. 18%）のように訳しているが、両方とも可能である。両方とも memuji（ほめる）を名詞化した派生語であるため、その文では自然である。また、「泥棒に入られた」を、dimasuki maling（9/13= 69. 23%）、kemasukan maling（2/13=13. 35%）、kemalingan（2/13=13. 35%）のような表現を使って表しても意味が伝わる。

次に、2 年生の場合は、「死なれる」を ditinggal mati（12/13=92. 31%）、kehilangan（1/13=7. 69%）で表現している。この場合、インドネシア語の受身に対応させるため、「ditinggal（その場に残されて）＋死ぬ」という「di-動詞」構文で表現するか kehilangan のような hilang（なくなる）を「ke-|-an」構文にして表現するのが自然である。また、「風に吹かれる」を keanginan（5/13=38. 46%）、tertiup angin（1/13=7. 69%）、angin bertiup（7/13=53. 85%）など様々な文で

表現している。この場合、keanginan のような「ke-|an」構文と tertiup angin の「ter-動詞」構文の方が自然であるが、angin bertiup「風が吹く」のように「meng-動詞」構文で表現しても前後の文を見れば自然である。なお、３年生が「父に殴られたんだよ」の「殴られた」を dipukul（19/24=79. 17%）、memukul-ku（5/24= 20. 83%）で表現している理由は学習者が置く焦点（object focus か subject focus）によるものではないかと思われる。

最後に、４年生の場合は、「踏まれた」を diinjak（12/12= 100%）、terinjak（8/12=66. 67%）、menginjak（1/12=8. 33%）で表現している。相手がわざと足を踏んだと言いたいとき、「di-動詞」構文で表現し、無意志的な動作と思えば、「ter-動詞」構文で表現し、前後の文を考えながら主体の位置を変化させて「meng-動詞」構文で表現する、というような様々な理由で様々な表現が使われている。このように学習者が文の内容を理解すれば、インドネシア語に訳すためには好きな表現を自由に選ぶことができることから、殆どの学生が「インドネシア語から日本語への翻訳」よりも「日本語からインドネシア語への翻訳」の方がやりやすいと言っている。

3. 3 まとめ

以上、学習者による「られる」の誤用・正用を見てきた。誤用が起こったのは、主にインドネシア語から日本語に訳す時である。その誤用の原因は主に母語干渉と言える。つまり、様々な「di-動詞」構文の意味・機能の影響をそのまま日本語の「（ら）れる」に訳してしまうということである。一方、日本語からインドネシア語に翻訳する際、学習者が自分で文章を変え、適当な語・表現を自由に選ぶことができるため、内容さえ伝われば、誤用があまり見られないということがわかった。

4. 考察

ここまでは「di-動詞」構文の意味・機能を整理した上で、それを日本語の「（ら）れる」と対比し、さらに学習者の誤用及びその原因を見てきた。その結果、「di-動詞」構文は受身以外の意味・機能を多く持っており、日本語の「られる」に対応していないもの、つまり日本語の「られる」にはない意味・機能が多く見られるため、学習者の誤用の原因となっているということがわかった。本章では、ここまでの比較を踏まえて「di-動詞」構文の本質を見ていく。

すでに見たように日常的言語使用、特に日常的な会話では、話者と聞き手の動作について述べる際、「meng-動詞」構文よりも「di-動詞」構文のほうがよく使われている。「di-動詞」構文はどのような目的のために使われるのかと言うと、以下のような５つの特徴と関わりがあると考えられる。

第１に、「動作主＝話者」の場合、「その動作を行ったのは話者自身だ」ということを隠すために「di-動詞」構文が使用されると考えられる。話者が動作主(話者自身)を隠す動作には、いいと思われる動作もあるし、悪いと思われる動作もある。例(17)で見たように、「聞き手に利

益を与える話者の動作」（いいと思われる動作）は、動作主を見せると、「自分がやった。私がいなかったらあなたが困るよ」というようなニュアンスを与えてしまい、習慣的に良くない（押し付けがましい）と思われるため、それを婉曲的に伝えるのに「di-動詞」構文を使う。一方、悪いと思われる動作の例は、次のようである。

(70) A: Mana suratnya?
どこ　例の手紙
例の手紙はどこ？
B: Maaf,　sudah *dikirim*.
すみません　もう　di-送る　(直訳：すみません、もう送られる。)
申し訳ございませんが、送ってしまったのです。

この例は、B は A（上司）に頼まれた手紙をタイプしてから、A に見せずに送ってしまったという場面である。動作主を表さない「di-動詞」構文で言うのは、動作主である「自分」を隠すためである。もし、「meng-動詞」構文で言えば、もっとひどく叱られるかもしれない。2.3 で述べたように、無意志的な動作の場合は「ter-動詞」で表すが、この「di-動詞」構文の使用は、「ter-動詞」構文で表現できないものである。この場合、「ter-動詞」構文を使わないのは、ある程度の意志的な動作であるからである。この特徴の構文としては、「被動作主＋di 動詞」で表現され、動作主が暗示される。このような特徴は日本語の「られる」には見られないが、すでに触れたように、日本語の場合、いいと思われる動作を表すとき、「お茶が入りました」のように話者の動作を婉曲に表現するために動作主を消して自動詞で表すことがあるのではないであろうか。

第 2 に、「動作主＝聞き手」の場合、話者が聞き手に「命令・依頼・示唆、さらに許可・禁止・義務などをより柔らかく伝える」ために「di-動詞」構文が使用されるのではないかと考えられる。例(10)～(14)で見たように、命令文は政府や軍人の世界における改まった場面や緊急事態において目上の人から目下の人に出すものという考え方がある。しかし、日常的には人間関係を維持するために、話者がいくら力を持っていても聞き手に直接的に命令をするのは良くないため、それを避けるために間接的に伝えることによって丁寧さを感じさせるのである。同様に、例(15)～(17)の場合も聞き手にとって丁寧さを感じるほかに、自分が命令されているというよりも相手が自分の力・助けを求めているというニュアンスを受け取ることができる。また、例(19)～(26)で述べたように、「di-動詞」構文は許可・禁止・義務などの様々な表現と共に使うことによって、話者の意図を聞き手に間接的に伝える。例えば、例(22b)の“Novel ini sulit dibaca”（この小説は読みにくい）という文では、「あなたもきっと読めないよ」という意味が含まれる。この特徴の構文としては「被動作主＋di 動詞」で表現され、動作主が暗示されている。このような特徴は日本語の「られる」には殆ど見られない。

第 3 に、話者が「動作主が被動作主に対する行為をある程度意志的に行った」と考えていることを表すために「di-動詞」構文が使用されると考えられる。この特徴は、例(30)～(33)など

で見たように、主に受身としての「di-動詞」構文であり、「ter-動詞」構文に対立したものである。その結果、動詞自体の意味によって動作主（agent）が悪い（迷惑の意味になる）場合もあるし、動作主（agent）のお陰で話者にとって利益・恩恵となり、感謝・ありがたいという気持ちを表す場合もある。まず、表 3 の中の例(45)～(47)のように、「di-動詞」構文を使うことによって、「わざわざ私（patient）にその動作をやってくださってありがとう」という恩恵の意味になる場合もある。一方、日本語では、恩恵の意味を表すために、主に受身ではなく、「～てもらう」表現が用いられる。次に、迷惑の意味を表す「di-動詞」構文は、次のような例がある。

(71) Adik : Bu! kaki saya *diinjak* (oleh) kaka.
弟 お母さん、足 私 di-踏む によって 兄（直訳: お母さん、私の足が(わざと)兄に踏まれる）
お母さん、お兄さんは私の足を踏んだよ。
Ibu : Bukan *diinjak*, tapi *terinjak*.
母 否定 di-踏む、しかし ter-踏む （直訳:踏まれるんじゃない、踏んでしまう）
わざと踏んだんじゃないよ。踏んでしまったのよ。

以上の会話では、弟が母に兄が悪いと言い出したが、母は「わざと、踏んだわけじゃないよ」と兄をかばっている場面である。被動作主（=話者）である「弟」が「di-動詞」構文を使うと、動作主である「兄」が意図的にやったことを示すのに対し、母はそれを否定するために、「ter-動詞」構文を使うわけである。この特徴を持つ構文は「被動作主+di 動詞+（oleh）動作主」で表現される。

さらに、例(48)～(50)のように、「ditinggal+Vx」という構文では、「その主語（patient）は動作主（agent）が行った動作（Vx で示した action）で迷惑を受ける」という意味を表す。ここで「Vx」とは「行く・出かける・帰る・逃げる・休む・死ぬ」などのような「主体が普段ある場所に存在することから存在しないようになる状態」を表す特殊な自動詞である。この特徴を持つ構文は「被動作主＋ditinggal＋Vx oleh 動作主」である。すでに見たように、日本語の受身、特に間接受身には主に迷惑の意味を表す。

第 4 に、話者が「第三者（話者と聞き手以外）の動作を簡潔的に描写する」ために「di-動詞」構文が使用されると考えられる。グライスが提唱した協調の原理のうち、「必要とされている情報をすべて与えよ。必要以上の情報は与えるな」（ジェニ・トマス　1998：70）という「量の公理」がある。そのため、例(8)のように、ある人物の動作を描写する際、「di-動詞」構文を使うのは、話の流れを維持し、効率よく相手に事実を伝えるためである。

インドネシア語では話題を維持するためには、subject focus（動作主の焦点化）ではなく、目的語（被動作主）を話題にする object focus（被動作主の焦点化）か、動作自体を話題にする action focus（動作自体の焦点化）を用いる。「di-動詞」構文はこの機能を果たしている。反対に「meng-動詞」構文を使うと、主語（subject）と目的語（object）を必ず言う必要があるため、subject focus（動作主の焦点化）となってしまい、話題を転換してしまうという印象を与える。

このような「di-動詞」構文の特徴を持つ構文は、「被動作主＋di-動詞」及び「di-動詞＋被動作主」で表現される。このような話題を維持するための「di-動詞」構文の特徴は日本語の「られる」には見られない。日本語では談話の話題を維持するために、主に agent focus（動作主の焦点化）を用い、またトピックマーカーである助詞「は」を使用すると言われている。

第 5 に、「被動作主（patient）yang di-動詞（oleh）動作主（agent）」という形を取る句の場合、話者があまり特定されていない被動作主をより特定化するために「di-動詞」構文が使用されると考えられる。例(27)～(29)で見たように、被動作主である主名詞句を「di-動詞」を含む連帯節で修飾することによってその修飾語が特定された名詞句となる。このような特徴は日本語の「られる」には殆ど見られない。

以上、「di-動詞」構文の 5 つの特徴を見てきた。それらの特徴には、「既知の話題（名詞句）に関して動作主ではなく、被動作主又は動作自体を焦点化する表現法」という共通性が認められるため、これが「di-動詞」構文の本質的な性質と言えるであろう。インドネシア語話者は言語による日常的なコミュニケーションにおいて人間関係をうまく維持するために、動作主（subject）よりも被動作主（object）や動作自体（action）のほうを強調する傾向があり、そのため「di-動詞」構文をよく使用すると考えられる。

5. おわりに

本研究では、「di-動詞」構文の意味・機能を分析し、日本語の「（ら）れる」と対比し、さらに学習者の誤用及びその原因を見てきた。「di-動詞」構文の意味・機能を、①被動作主を旧情報とし、②談話-プラグマティックの観点から action focus または object focus、さらに③object focus から jussive と politeness を派生し、④文レベルも句レベルも、命令・義務・依頼・禁止などの様々な表現と共に使えるということが明らかになった。つまり、「di-動詞」構文は受身以外の意味・機能を多く果たしており、日本語の「られる」に存在しない意味・機能が多く見られるため、学習者の誤用の原因となっているということがわかった。

これらの「di-動詞」構文と日本語の「られる」と対照した結果から、インドネシア人日本語学習者が日本語の「られる」を習得するためには、教師が「di-動詞」構文＝インドネシア語の受身の一種という従来の考え方を捨てさせ、「di-動詞」構文の意味・機能の中で、受身としての意味・機能はほんの一部だけであり、すでに述べたようなより広い意味・機能があるということを、学習者に深く理解、認識させる必要があるであろう。さらに、インドネシア語では「meng-動詞」と「di-動詞」の対立は能動態と受動態と言われるが、日本語の能動態と受動態の対立とは意味・機能的には異なるため、同じだと考えないということをインドネシア人日本語学習者や日本人インドネシア語学習者に教える必要がある。

また、日本語の「られる」を学ぶときに、「di-動詞」構文＝日本語の受身「（ら）れる」という誤解を招かないように、上での述べた「di-動詞」構文の意味・機能及びその特徴は日本語の

「（ら）れる」の意味・機能とは異なるということを説明する必要がある。さらに、本研究の成果を日本語教育、特にインドネシア人日本語学習者に「られる」を指導するのに生かしていくことについては今後の課題となる。

注

[1] 田中（1991）の用語は「di-構文」であるが、本稿ではそれを「di-動詞」と呼ぶことにする。

[2] 資料（1）a を参照。

[3] インドネシア語では、動詞の能動態と受動態を表すために、接頭辞「meng-」と「di-」がある接頭辞「meng-」は、音便として「me-, men-, meny-」になることもあるが、「di-」の場合は変わらない。さらに、共接辞としては、「meng-|-kan」、「meng-|-i」、「di-|-kan」、「di-|-i」というセットがあるが、本稿では、これらを「meng-動詞」と「di-動詞」と呼ぶことにする。

[4] Rahadi（2005：88）は、インドネシア語における命令文は imperatif aktif（能動文の命令）imperative pasif（受動文の命令）としている。

[5] 修飾語の場合は DM（diterangkan-menerangkan：修飾される語＋修飾する語）という体系である。例えば、apel merah（りんご＋赤い＝赤いりんご）、bahasa Jepang（言語＋日本＝日本語）などがあるが、日本語の「本を読んだ人」（orang *yang* membaca buku）、「太郎が読んだ小説」（Novel *yang* dibaca oleh Taro）などのように、動詞の形が「meng-動詞」になったり、「di-動詞」になったりする場合もある。

[6] 『標準インドネシア語文法』（Tata Bahasa Baku Bahasa Indonesa）は、インドネシア文部科学省（現在：国家教育省）によって、参考書として出版されたものである。1988 年に「第 3 回インドネシア語会議」が行われた後、初めて出版されたが、その後、言語建設開発センターの専門家達によって内容的に訂正されたものもある。

[7] この4種類の受身の中で、Shibatani（1985）、Givon（1985）が指摘している基準に基づいて検証してみた結果（資料(1)を参照）、より受身らしいものは「di-動詞」構文であることがわかった。

[8] 尾上（2003）は、「出来文とは、（事態をあえて個体の運動（動作・変化）として語らず）、場における事態全体の出来、生起として語るという事態認識の仕方を表す文」と定義している。そこから「出来スキーマ」と呼ぶことにしている。その機能の一つは、「動作主の動作主性を消すために出来文を使う用法」とある（尾上（2003）を参照）。

参考文献

(1) 尾上圭介（2003）「ラレル文の多義性と主語」『月刊言語』№. 4、34-41.

(2) 小柳かおる（2004）『日本語教師のための新しい言語習得概論』スリーエーネットワーク

(3) 高見顕一（1995）『機能的構文論による日英語比較―受身文、後置文の分析―』くろしお出版

(4) 柴谷方良（2000）「ヴォイス」仁田義雄・益岡隆志(編集)『文の骨格』119-186、岩波書店
(5) 柴谷方良(2002)「言語類型論と対照研究」生越直樹(編)『対照言語学』11-48、東京大学出版会
(6) ジェニー・トマス著（1998）『語用論入門』（浅羽亮一他訳）研究社出版
(7) 田中真理（1991）「インドネシア語を母語とする学習者の作文に現れる『受身』についての考察」『日本語教育』No. 74、109-122
(8) 田中春美他編（1985）『現代言語学辞典』成美堂
(9) Alieva NF, Arakin VD, Oglobin AK, Sirk Yu H (1972) *Grammatika Indoneziiskogo Jazyka,* Nauka, Moscow (Pusat Penerjemahan Buku Ilmiah Moskow 1991, *Bahasa Indonesia: Derkripsi dan Teori*, Penerbit Kanisius).
(10) Alisjahbana S. Takdir (1949) *Tata Bahasa Baru Bahasa Indonesia,* PT. Dian Rakyat.
(11) Alwi Hasan, et al. (1998) *Tata Bahasa Baku Bahasa Indonesia,* Balai Pustaka.
(12) Chung Sandera (1976) On the Subject of Two Passives in Indonesia, Charles N. Li (ed.) *Subject and Topic,* 57-98, New York: Akademic Press.
(13) Givon, T. (1984) *Syntax: A Fuctional Typological Introduction Vol I,* Amsterdam/ Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.
(14) Givon, T. (1985) Iconity, isomorphism and non-arbitrary coding in syntax, John Haiman (ed.), *Iconity in Syntax,* 187-219, Amsterdam/ Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.
(15) Kaswanti Purwo Bambang (1988) Voice in Indonesian: a discourse studi, Shibatani M (ed.): *Passive and Voice*, 195-242, Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.
(16) Keraf Gorys (1970) *Tatabahasa Indonesia,* Nusa Indah.
(17) Prentice D.J. (1987) Malay (Indonesian and Malaysian), Comrie Bernard (ed.): *The World's Major Languages,* 913-935, Routledge London.
(18) Rahadi Kunjana (2005) *Pragmatik: Kesatuan Imperatif Bahasa Indonesia,* Penerbit Erlangga.
(19) Shibatani, M. (1985) Passive and Related Constructions: A Prototype Analisis, *Langue,* No. 61: 4, 821-848.
(20) Van Wijk D. Gert (1909) *Spraakleer der Maleische Taal*, G. Kolff & Co, Batavia, (Kamil TW 1985, *Tata Bahasa Melayu,* Penerbit Djambatan).
(21) Verhaar J.W.M (1983) Syntactic Ergativity in Contenporary Indonesia, Richard McGinn (ed.) *Studies in Austronesian Linguistics.* 347-384, Athens: Ohio University.

実例の出典

(1) Afandi Basri Ahmad (2006) *Bulan Tak Purnama,* QISH-U Kelompok Pro-U Media.
(2) Dasuki Tedhi (1986) *Gatotkaca Sraya*, Pionir Jaya Bandung.

添付資料(1):

a. インドネシア語の受身のプロトタイプ的なもの

No	項目	「di-動詞」	「φ動詞」	「ter-動詞」	「ke-語-an」
A	Shibatani (1985:837): Prototype of Passive				
1	Primary pragmatic function: Defocusing of agent 受動化の原型的語用論機能：動作主の脱焦点化	+	-	+	-
2	Semantic properties: (意味役割) (i) Semantic valence: Predicate (agent, patient) (意味項：述語(動作主：被動作主))	+	+	+/-	-
	(ii) Subject is affected (主語が影響を受ける)	+	+	+	+
3	Syntactic properties: (文法関係) (i) Syntactic encoding: 統語形態 -) agent - φ (not encoded) (動作主：表さない) -) patient – subject (被動作主→主語)	 + +	 - +	 + +	 - +
	(ii)Valence of P[redicate]: 項数が減る Active = P/n; (能動：項) Passive = P/n-1 (受動：項-1)	 + +	 + -	 - -	 - -
4	Morphological properties: (形態的に有無標) Active = P (無標) Passive = P[+passive] (有標)	 + +	 + -	 + +	 + +
B	Givon (1985:203): Function domains of passivization				
1	Topic assignment: Making the non-agent (object) the primary topic of the clause. (被動作主の主題化)	+	+	+	-
2	Impersonalization: Suppressing the identity of the active's agent/initiator in the passive clause. (動作主の格下げ)	+	-	+	-
3	Stativization/detransitivization: Construing the event as the resulting state of an action. (動作の結果の状態を表す)	+	+/-	+/-	+
C	その他の尺度				
1	負担が多い(使用頻度が高い) ①	+	+	-	-
2	書き言葉でも話し言葉でもよく使う	+	-	+	+
3	対応する能動文がある	+	+	-	-

注:

①:以下のような小説などからわかる。

1. Tedhi Dasuki (1986) "Gatotkaca Sraya" という昔話では、737(100%)文の中で、「di-動詞」構文は 140 文(19.00%)、「φ動詞」構文は 8 文(1.09%)、「ter-動詞」構文は 21 文(2.85%)、「ke-|-an」構文は 13 文(1.76%)である。
2. 現代の小説(新聞に載っているもの):303 動詞の中で、「di-動詞」構文は 32(10.56%)、「φ動詞」構文は 19(6.27%)、「ter-動詞」構文は 4(1.32%)、「ke-|-an」構文は 0(0.00%)である。
3. 『標準インドネシア語』の前書きでは、61 個の動詞の中で、「di-動詞」構文:32 「di-動詞」構文以外:29 語である。

b. 他動性が強い動詞から弱い動詞への順番

能動文：A (mereka:彼ら), P: pak lurah (村長)、rumah:　家、mobil:　車、surat:　手紙、nasi:　ご飯

No	動詞	「di-動詞」(1)	「φ動詞」(2)	「ter-動詞」(3)	「ke-語-an」(4)
1	Membunuh 殺す	Pak lurah *dibunuh* (oleh) mereka.(意志的)	Pak lurah *mereka bunuh*. (意志的)	Pak lurah *terbunuh* (oleh mereka). (つい・無意志的に)	*Pak lurah *kebunuhan* (oleh mereka).
2	Membakar 燃やす	Rumah pak lurah *dibakar* (oleh) mereka.	Rumah pak lurah *mereka baker*.	Rumah pak lurah *terbakar*. 「つい・無意志的に」	Rumah pak lurah *kebakaran*. (状態文)
3	Memukul 殴る	Pak lurah *dipukul* oleh mereka.	Pak lurah *mereka pukul*.	Pak lurah *terpukul*. 「つい・無意志的に」	*Pak lurah *kebunuhan*.
4	Menginjak 踏む	Kaki pak lurah *diinjak* oleh mereka.	Kaki pak lurah *mereka injak*.	Kaki pak lurah *terinjak* oleh mereka.「つい・無意志的に」	*Kaki pak lurah *keinjakan*.
5	Mencuri 盗む	Mobil pak lurah *dicuri* oleh mereka.	Mobil pak *lurah mereka* curi.	Mobil pak lurah *tercuri* (oleh mereka).「望ましくない・盗める」	*Mobil pak lurah *kecurian*. → **Pak lurah** *kecurian*. (状態)
6	Membeli 買う	Rumah pak lurah *dibeli* oleh mereka.	Rumah pak lurah *mereka beli*.	Rumah pak lurah *terbeli* (oleh mereka).「買える」	*Rumah pak lurah *kebelian*.
7	Membaca 読む	Surat pak lurah *dibaca* oleh mereka.	Surat pak lurah *mereka baca*.	Surat pak lurah *terbaca* (oleh mereka). 「つい・無意志的に、読める」	*Surat pak lurah *kebacaan*.
8	Melihat 見る	Pak lurah *dilihat* oleh mereka.	Pak lurah *mereka lihat*.	Pak lurah *terlihat* oleh mereka. 「つい・無意志的に・見える・望ましくない」	Pak lurah *kelihatan*. 「見える」(状態)
9	Memakan 食べる	Nasi pak lurah *dimakan* oleh mereka.	Nasi pak lurah *mereka makan*.	Nasi pak lurah *termakan* (oleh mereka). 「つい・無意志的に」	*Nasi pak lurah *kemakanan*.
10	Mengambil 取る	Nasi pak lurah *diambil* oleh mereka.	Nasi pak Lurah *mereka ambil*.	Nasi pak lurah *terambil* oleh mereka.	*Nasi pak lurah *keambilan*.
11	Memulangkan 帰らせる	Pak lurah *dipulangkan* oleh mereka.	Pak lurah *mereka pulangkan*.	*Pak lurah *terpulangkan* oleh mereka.	*Pak lurah *kepulangan*.
12	Pulang 帰る	*Pak lurah *dipulang* oleh mereka.	*Pak lurah *mereka pulang*.	*Pak lurah *terpulang* oleh mereka.	*Pak lurah *kepulangan*.
13	Menangis(自) 泣く	*Pak lurah *ditangis* oleh merka.	*Pak lurah *mereka tangis*.	*Pak lurah *tertangis*.	*Pak lurah *ketangisan*.
14	Mati(自) 死ぬ	*Pak lurah *dimati* oleh mereka.	*Pak lurah *mereka mati*.	*Pak lurah *termati*.	*Pak lurah *kematian*.
15	Hujan 雨、angin 風（名）	*Pak lurah *dihujan*. *Pak lurah *diangin*.	*Pak lurah *hujan*. *Pak lurah *anginan*.	*Pak lurah *terhujan*. *Pak lurah *terangin*.	Pak lurah *kehujanan*. Pak lurah *keanginan*.
16	Dingin (名詞) 寒い	*Pak lurah *didingin*.	*Pak lurah *dinginan*.	?Pak lurah *terdingin*. (一番冷たい・最大)	Pak lurah *kedinginan*. (状態)
17	Malam (名詞) 夜	*Pak lurah *dimalam* oleh mereka.	*Pak lurah *malam*.	*Pak lurah *termalam*.	Pak lurah *kemalaman* di hutan. （森に夜になってしまった：状態)
18	動作主の脱焦点化	可能	不可能	可能	不可能
19	無標	有標	無標	有標	有標
20	使用頻度	高い	高い	低い	低い
21	対応する能動文の有無	あり	あり	なし	なし

注意：

(1) 「di-動詞」と「φ動詞」では、動作主の意志的な動作が強い。
(2) 「φ動詞」の場合は動作主の脱焦点化ができないが、「di-動詞」と「ter-動詞」はできる。
(3) 「ter-動詞」には、動作主の無意志的な動作を表すため、それらの能動文には対応しない。
(4) 「ke-|-an」は、状態を表すだけであり、動詞文ではないため、対応する能動文がない。これは名詞文と言われている。例え動詞でできた「ke-|-an」の場合であっても、実は、受動態を表すものではなく、名詞化したものである。例えば、「父に死なれた」を「Saya kematian oleh ayah」というマレー語では言えるが、インドネシア語ではこのような kematian の用法は非文である。「Kematian akan datang pada setiap orang」（「死ぬということは、誰にでもきっとやってくるだろう」）が文法的である。

添付資料(2): 翻訳の調査（問題集）

1. 一年生用の日本語への訳

(1)Amir dan Ali berkelahi. (2)Mula-mula kepala Ali *dipukul* oleh Amir. (3)Kemudian, pantatanya *ditendang* sampai terjatuh. (4)Ali ingin memukul muka Amir, tapi tidak bisa. (5)Akhirnya ia menangis.

(6)Amir pulang ke rumahnya. (7)Ia *dibelikan* ikan kesukaannya oleh ibunya. (8)Ia ingin makan ikan yang *dibelikan* oleh ibunya. (9)Ketika mau makan, ikan itu *dimakan* oleh kucing. (10)Ia marah. (11)Lalu kucing itu *ditendangnya*. (12)Akhirnya Amir menangis juga.

2. 一年生用のインドネシア語への訳文

(1) 次郎は試験が良くできたので、先生に①ほめられた。しかし、太郎は次郎が先生に②ほめられたことが嫌だった。学校の後、③太郎は次郎の頭を殴った。
(2) 夕べ、田中さんは泥棒に④入られたという事件があった。お金や貴重な物を⑤盗まれたそうだ。犯人は田中さんの娘に顔を⑥見られたのでその娘を殺した。
(3) 田中さんは犯人に娘を⑦殺された。その娘は１５階から犯人に⑧落とされた。
(4) この小説は多くの若者に⑨読まれている。
(5) きのう、⑩雨に降られて、風邪をひいてしまった。
(6) あの子は親に⑪死なれて、独りぼっちになっている。

3. 二年生用の日本語への訳文

(1)Sekarang saya sedang belajar bahasa Jepang di Program Pendidikan Bahasa Jepang FPBS UPI. (2)Saya *diajarkan* bahasa Jepang oleh Morinishi Sensei. (3)Setiap hari banyak *tugas yang harus dikerjakan* oleh mahasiswa.

(4)Bulan lalu ayah saya pulang dari Jepang. (5)Saya *dibelikan* buku bahasa Jepang. (6)Buku itu selalu *saya baca* setiap hari. (7)Terkadang ada huruf Kanji yang tidak *bisa dibaca*. (8)Saya selalu *dibacakan* huruf Kanji oleh teman. (9)Sebenarnya saya ingin kamus elektrik, tapi oleh ayah malah *dibelikan* kamus biasa.

4. 二年生用の日本語への訳文

(1) 間にとっては、好きな相手に①死なれるのは、とてもつらいことだ。子供に②死なれるよりも、親に③死なれるよりも、つらい。また、好きな人に④裏切られても同じだ。だから、私は結婚する時、そのことを主人に言った。
(2) 父は家族の為に毎日働いている。雨に⑤降られても、風に⑥吹かれても、家族の為に働き続けるだろう。
(3) 去年、森西先生に漢字の勉強の仕方を⑦教えていただきました。
(4) 森西先生が⑧教えてくださった方法は、頭で⑨覚えるのではなく、手で⑩覚えるということです。
(5) 「何もございませんが、どうぞ、⑪召し上がってください。」
(6) あそこにタバコを⑫吸っている男の方は、私の日本語の先生です。その先生が⑬吸っているタバコは日本のタバコですよ。
(7) この小説は⑭読みやすいが、あの小説は⑮読みにくい。
(8) さき、あの教室のドアが⑯閉まっていた、今は⑰開いてある。誰が⑱開けたかわからない。

5. 三年生用の日本語への訳文

(1)Sudah tiga hari Ali tidak sekolah, karena sakit. (2)Minggu lalu ketika Ali akan pergi ke sekolah, ia berlari karena terlambat (takut kesiangan). (3)Di jalan ia *dikejar* anjing. (4)Kemudian kakinya *digigit* oleh anjing itu. (5)Ali pulang ke rumahnya sambil menangis.

(6)Lalu oleh ayahnya ia *dibawa* ke dokter untuk *diperiksa*. (7)Oleh dokter Ali *diberi* obat, kemudian *disarankan* untuk instirahat. (8)Obat yang *diterima* dari dokter *diminumnya* setiap hari. (9)Untungnya, anjing itu tidak mengandung penyakit rabies.

6. 三年生用のインドネシア語への訳文

(1) 私は父に新しい小説を①買ってもらった。その小説妹は多くの若者に②読まれている。しかし、私がまだ③読んでいないのに、妹に先に④読まれてしまった。たしか、その小説は⑤読みやすいと言われている。
(2) 親が自分の子供を⑥殴ったという話があった。その子供は勉強せずに、毎日遊んでばかりいて、親の言うことを聞かないからである。だから、その子が親に⑦殴られたのは当たり前だ。
(3) 私は、大学を辞めると親に言ったら親父に⑧殴られたんだよ。その時、「親父にも⑨ぶたれたことないのに！って」台詞が浮かんできてつい笑ってしまった。そしたら親父に、なにニヤニヤしてるんだってまた⑩殴られたのよ。スゲー痛いのに今度は、「二度も⑪ぶったね」って台詞が浮かんできてまた笑ってしまった。そしたら親父に⑫不気味がられた。
(4) 先生：「宿題を⑬やりましたか。」　学生：「いいえ、まだです。これからやります。先生、どうぞ、⑭召し上がってください。」　先生：「いただきます。」(場面：学生室で)

7. 四年生用の日本語への訳文

a.

(1)Bulan lalu ayah saya *membelikan* buku padaku. (2)Buku itu *saya baca* selama seminggu. (3)Setelah selesai membacanya, buku itu *kuberikan* pada adikku (perempuan). (4)Dia membacanya setiap hari.

(5)Suatu hari temanku datang ke rumah, ia melihat adikku yang sedang *membaca* buku yang *dibelikan* oleh ayah bulan lalu.

(6)"Den, perempuan yang sedang *membaca* buku itu, siapa?"

(7)"Itu adikku, si Nani".

(8)"Buku yang sedang *dibaca* olehnya sepertinya menarik, boleh *saya pinjam*?"

(9)"Boleh, nanti saya ngomong"

(10) "Apa itu?"

(11) "Ini oleh-oleh yang *dibelikan* ayah kemarin. Silahkan *dimakan*!"

(12)Kemudian buku itu *dipinjamkan* oleh adik saya pada teman saya itu.

b.

(1)Ketika Ali datang ke kampus, pintu kelas sudah *terbuka*. (2)Entah siapa yang *membukanya*, karena di sana tidak ada seorang pun. (3)Atau mungkin pintu itu *terbuka* oleh angin.

(4)Ali pergi ke kopma, dan *membeli* sebuah pinsil. (5)Pinsil yang *dibeli* oleh Ali itu *diberikan* pada seseorang. (6)Orang yang *diberi* pinsil oleh Ali itu adalah temannya. (7)Lalu ia mencoba menulis sesuatu di kertas, dan berkata: "Pinsil ini *enak dipakai.* (8)Terima kasih".

8. 四年生用のインドネシア語への訳文

きのう、嫌なことばかりあった。学校で、友達と喧嘩をして窓のガラスを壊してしまった。それから、私たちは先生に①叱られて、みなに②笑われてしまった。

家へ帰るとき、バスが込んでいて、隣の人に足を③踏まれた。バス代を払おうとすると、財布が人に④すられた。それから、バスを下りると、雨に⑤降られて風を引いてしまった。夕べ、隣の赤ん坊に⑥泣かれて、眠れなかった。

最近、少女の写真を満載した雑誌が良く⑦見られる。昔と違って、現代の若者は写真を⑧撮られることが平気だけではなく、自分の方から積極的に被写体となる。これは何だ。スター気分をその瞬間に味わえるからか。要するに、⑨見られたい、⑩注目されたい、といういわば「透明な存在」であることに耐えられないことからくる叫びか。カラオケ好きもその現れか。それにやたら群れたがる。⑪仲間外れにされることを極端に恐れる。

添付資料(3): 学習者による「られる」の誤用

a. インドネシア語から日本語への訳文の誤用種(資料(1)を参照)

No	A. 誤 用 種	学年	F(名)	%	原因(インタビュー結果)
1	情報構造：旧情報を表す「di-動詞」				原因
	(1) 彼が怒って、その猫がアリにけられた。(1.(11))	1 年	13/13	100	母語干渉 (1)
	(2) その本はいつも私に読まれます。(3.(6))	2 年	3/13	23.08	母語干渉 (1)
	(3) 医者からもらった薬を彼に飲まれた。(3.(8))	3 年	14/24	58.33	母語干渉 (1)
	(4) その本は一週間ぐらい私に読まれた。(7a.(2))	4 年	1/12	8.33	母語干渉 (1)
	(5) その本を妹に与えられた。(7a.(3))	4 年	2/12	16.67	母語干渉 (1)
	(6) その本が妹に友達に貸された。(7a.(11))	4 年	1/12	8.33	母語干渉 (1)
	(7) そのドアが風に開けられたかもしれない。(7b.(3))	4 年	1/12	8.33	母語干渉 (1)
	(8) アリが買った鉛筆が誰かにあげられた。(7a.(5))	4 年	3/12	25	母語干渉 (1)
2	プラグマティック構造：(jussive/敬意)				
	(1) 先生、どうぞ召し上がってください。(6：⑬) → *dimakan/dicicipi!*	3 年	17/24	70.83	正用
	(2) Silahkan *dimakan!* (7a.(11)) b. どうぞ、召し上がってください。 c. どうぞう、食べてください。 d. どうぞ。	4 年	 4/13 2/13 7/13	 30.77 15.38 53.85	正用
3	他の様々な表現と共に使う「di-動詞」(文・句のレベル)				
	(1) やられなければならない宿題がたくさんある。(3.(3))	2 年	2/13	15.38	母語干渉 (1)
	(2) 読められない漢字がある。(可能:3.(7))	2 年	5/13	38.46	母語干渉 (1)
	(3) 医者からもらわれた薬… (修飾語:3.(8))	3 年	2/24	8.33	母語干渉 (1)
	(4) その読まれる本が….(7a.(8))	4 年	1/12	8.33	母語干渉 (1)
	(5) アリさんに鉛筆をあげられた人は… (修飾語:7b.(6))	4 年	3/12	25	母語干渉 (1)
4	受身としての「di-動詞」				
	a. 「られる」(嫌なこと)と「～てもらう」(恩恵)との混同				
	(1) 彼はお母さんに好きな魚を買われた。(1.(7)イ文)	1 年	5/13	38.46	母語干渉 (1)
	(2) 私は森西先生に日本語を教えられました。(3.(2)イ文)	2 年	4/13	30.77	使い分けがわからない
	(3) 私は父に日本語の本が買われます。(3.(5)イ文)	2 年	4/13	30.77	使い分けがわからない
	(4) 私は友達に漢字を読まれます。(3.(8)イ文)	2 年	3/12	25	使い分けがわからない
	(5) 普通の辞書を買ってもらった。→(買われる：3.(8))	2 年	10/13	76.92	使い分けがわからない
	(6) アリは医者に薬をあげられた。(もらった:5.(7))	3 年	5/24	20.83	忘れた(ミス) (2)
	b. 間接受身の構造を直接受身の構造にする。				
	(1) アリさんの頭がアミルに殴られた。(1.(2)イ文)	1 年	7/13	53.85	母語干渉 (1)
	(2) アリさんの尻がアミルにけられました。(1.(3)イ文)	1 年	7/13	53.85	母語干渉 (1)
	(3) 彼の足がその犬に噛まれた。(5.(4)イ文)	3 年	4/24	16.67	一部忘れた(ミス)
	B. 学習者の正用の種類				
1	被害を表すために、「られる」受身で表現する。例：～食べる時、猫にその魚を食べられた（～てしまった）。(1.(9))	1 年	13/13	100	偶然（迷惑を表す機能がわからない）
2	アリが犬に追いかけられた。	2 年	13/13	100	習得している(3)
3	目的語を修飾する場合。 例：父が買ってくれた本(7a.(5),(6),(11))	4 年	13/13	100	習得している(3)
4	敬意を表す「di-動詞」を尊敬語で表す。 例：どうぞ、召し上がってください。(7a.(11))	4 年	13/13	100	習得している(3)
5	難易を表す Object focus とする「di-動詞」を「～やすい」に直す。例：この鉛筆は書きよい。(7b.(7))	4 年	13/13	100	習得している(3)

注意：

(1) ここでいう母語干渉は、学習者が意味のことをあまり考えずに、インドネシア語の「di-動詞」をそのまま日本語の「られる」に直すことを指すものである。

(2) この誤用について、学習自身も間違いだということがわかった。（不注意の問題）

(3) ここで言う習得しているとは、学習者がインドネシア語でどう訳したらいいかということがもうわかったということである。

b. 日本語からインドネシア語への誤用・正用

問	学習者による正答(%)	原因(インタビュー結果)
2.	1年生	学習者の意見・理由
①	①ほめられた (a)dipuji (11/13= 84.62%), (b)guru memujinya (2/13=13.35%)	(a)より自然（そのまま訳す）, (b)主語を変える（２つの文に分ける)。
	②ほめられた(a)dipujinya (10/13=76.92%), (b)pujian (3/13= 23.18%)	(a)そのまま訳す、(b)両方とも状態(名詞)を表す
	③殴った memukul(13/13=100%)	そのまま訳す
②	④泥棒に入られた(a)dimasuki maling (9/13=69.23%), (b)kemasukan maling (2/13=13.35%), (c)kemalingan (2/13=13.35%)	(a)泥棒の意思が強い、(b)より一般的、 (c)日常的に言える
	⑤盗まれた dicuri(13/13=100%)	動詞のそのまま訳す
	⑥見られた(a)terlihat(5/13=38.46%), (b)dilihat(7/13=53.85%), (c)melihat…(1/13=7.69%)	(a)無意志的、(b)泥棒にとって意志的(c)娘が主語にする
③	⑦殺された dibunuh(13/13=100%)	そのまま訳す
	⑧落とされた dijatuhkan(13/13=100%)	そのまま訳す
④	⑨読まれる dibaca(13/13=100%)	そのまま訳す
⑤	⑩雨に降られて(a)kehujanan (5/13=38.46%), (b)hujan turun (8/13=61.54%)	(a)より自然的、(b)動詞にこだわれる
⑥	⑪死なれて(a)ditinggal mati(8/13=61.54%), (b)meninggal (5/13=38.46%)	(a)より自然的、(b)父が主体にする
4.	２年生	学習者の意見・理由
①	①死なれる(a)ditinggal mati(12/13=92.31%), (b)kehilangan (1/13=7.69%)	(a)より自然、(b)より文学的
	②死なれる(a)ditinggal mati(12/13=92.31%), (b)kehilangan (1/13=7.69%)	(a)より自然、(b)より文学的
	③死なれる(a)ditinggal mati(12/13=92.31%), (b)kehilangan (1/13=7.69%)	(a)より自然、(b)より文学的
	④裏切られる dikhianati(13/13=100%)	そのまま訳す
②	⑤雨に降られる(a)kehujanan(5/13=38.46%), (b)hujan turun (8/13=%)	(a)より自然、(b)文法的な観点から
	⑥風に吹かれる (a)keanginan(5/13=38.46%), (b)tertiup angin (1/13=7.69%), (c)angin bertiup (7/13=53.85%)	(a)状況を表す、(b)意味を考える、(c)構造を考える
③	⑦教えていただく (a)diajarkan(11/13=%), (b)mengajari saya (2/13=15.38%)	(a)自然な文、(b)先生の意志的な行動
④	⑧教えてくださった方法 metode yang diajarkan(13/13=100%)	より自然
	⑨～で覚える(a)diingat(7/13=53.85%), (b)mengingatnya (6/13=46.15%)	(a)より自然、(b)主体の視点
	⑩～で覚える(a)diingat(7/13=53.85%), (b)mengingatnya (6/13=46.15%)	(a)より自然、(b)主体の視点
⑤	⑪召し上がって(a)dimakan(dinikmati) (12/13=92.31%), (b)silahkan makan (1/13=7.69%)	(a)より丁寧、(b)相手による
⑥	⑫吸っている人 merokok (13/13=100%)	人(動作主)を修飾する
	⑬吸っている煙草 dihisapnya (13/13=100%)	もの(対象語)を修飾する
⑦	⑭読みやすい mudah dibaca (13/13=100%)	文脈を見て、より自然
	⑮読みにくい sulit dibaca (13/13=100%)	文脈を見て、より自然
⑧	⑯閉まっている tertutup (13/13=100%)	状態
	⑰開けてある terbuka (13/13=100%)	状態
	⑱開けたか membukanya (13/13=100%)	動作主を考える
6.	３年生	学習者の意見・理由
①	①買ってもらった dibelikan (24/24=100%)	より自然
	②読まれた(a)dibaca (23/24=95.83%), (b)membacanya (1/24= 4.17%)	(a)自然、(b)主語を変える場合
	③読んでいない membacanya (24/24=100%)	主語がはっきりしている
	④読まれてしまった(a)membacanya (9/24=38%), (b)dibaca (15/24=62%)	(a)主語を変える、(b)そのまま訳す
	⑤読みやすい mudah dibaca (24/24=100%)	より自然
②	⑥殴った memukul (24/24=100%)	能動文
	⑦殴られた dipukulnya (24/24=100%)	受動文そのまま訳す
③	⑧殴られた(a)dipukul(19/24=79.17%), (b)memukul-ku (5/24= 20.83%)	(a)そのまま訳す、(b)主語を変える
	⑨ぶたれた dihajar(dipukul) (24/24=100%)	そのまま訳す
	⑩殴られた dipukul (24/24=100%)	そのまま訳す
	⑪ぶった memukul-ku (24/24=100%)	能動文そのまま訳す
	⑫不気味がられた dianggap aneh (24/24=100%)	そのまま訳す
④	⑬やりました (a)mengerjakan (17/24=70.83%), (b)dikerjakan (7/24=29.17%)	(a)そのまま訳す、(b)より自然的

	⑭召し上がって(a)dimakan(dicicipi) (17/24=70.83%), (b)makan (7/24=29.17%)	(a)より自然、(b)相手による
8.	４年生	学習者の意見
①	叱られた dimarahi (12/12=100%)	そのまま訳す
②	笑われた (a)ditertawakan(8/12=66.67%), (b)menertawakan (4/12=33.33%)	(a) そのまま訳す、(b)主語を変える
③	踏まれた(a)diinjak(1/12=100%), (b)terinjak (8/12=66.67%), (c)menginjak (1/12=8.33%)	(a)そのまま訳す、(b)意志的でない、(c)主語を変える
④	すられた dicopet(dicuri) (12/12=100%)	そのまま訳す
⑤	雨に降られた(a)kehujanan(9/12=75%), (b)hujan turun(3/12=25%)	(a)より自然、(b)文構造を見る
⑥	子供に泣かれた(a)anak tetangga menangis(7/12=58.33%), (b)tangisan (anak) (5/12=41.67%)	(a)能動文しか訳さない、(b)状態(名詞化)
⑦	見られる (a)terlihat(3/12=25%), (b)dilihat(5/12=41.67%), (c)kita lihat (1/12= 8.33%), (d)melihat(3/12=25%)	(a)意思のことを考える、(b)そのまま訳す、(c)ゼロ動詞、(d)主語を変える
⑧	撮られた(a)dipotret(6/12=50%), (b)pemotretan(6/12=50%)	(a)そのまま訳す、(b)状態(名詞)で表す
⑨	見られたい ingin dilihat(12/12=100%)	より自然（そのまま訳す）
⑩	注目されたい ingin diperhatikan(12/12=100%)	より自然（そのまま訳す）
⑪	仲間はずれにされる (a)dikucilkan(11/12=91.67%), (b)mengucilkan (1/12=8.33%)	そのまま訳す

「より自然」：学習者がその訳語のインドネシア語がより自然的な文と言っている。

「より一般的」：学習者の日常的な経験からよく聞かれたものである。ただし個人差もあると言うことは否定できない。

「より文学的」：意味だけではなく、言葉・表現の美しさも考えている学習者である。

「そのまま訳す」：学習者が「られる」か「～る」をそのままインドネシア語の受動態か能動態に訳すだけで、意味のことはあまり深く考えないということである。

「文脈を見る」：学習者がその文を翻訳する前に、「di-動詞」で表現するか、「meng-動詞」で表現するかについて、その文の主語及び場面を読んでから決めるということである。

「主語を変える」：学習者が談話のつながりをうまく伝えるために、ある能動文を受動文に訳したり、逆に、ある受動文を能動文にしたりすることである。

「状態」：その事柄は動作ではないため、名詞化したほうがより自然ということである。

「文の構造を見る」：学習者が原文には主語も述語もあるので、そのままインドネシア語に直すと、ちょっと不自然だとは思ったが、結局、主語も述語も表せるように、「自動詞能動文」で表現するということである。

＊「ゼロ動詞」で表現するという理由は、学習者が日常的によく聞いたり話したりするものだからである。